





2016年度

# 教師海外研修報告書

独立行政法人 国際協力機構北陸支部(JICA北陸)







### はじめに

この報告書は、2016年度にJICA北陸が実施した「教師海外研修」についてまとめたものです。

「教師海外研修」は開発教育、国際理解教育に関心のある教師を対象に、開発途上国の現状、日本との関係や国際協力についての理解を深めていただき、その成果を次世代を担う児童・生徒への開発教育・国際理解教育に役立てていただくことを目的に実施しております。毎年全国各地で約170名の先生方に参加いただいておりますが、例年北陸支部では校種を限定しない一般コースと、工業高校と高専を対象に技術分野での人材育成にフォーカスした技術系グローバル人材育成コースの2コースを実施しております。今年度は、一般コースに5名、技術系グローバル人材育成コースに3名の教員が参加してくださり、それぞれのコースで海外研修を実施いたしました。

一般コースで訪問したサモアは、さんご礁に囲まれ椰子の木が生い茂る緑豊かな国である一方、島 嶼国に共通する多くの問題を抱えています。特に自然環境、生活環境の悪化により問題となってい る廃棄物管理や生態系保全、防災・気候変動対策などの支援が重点分野となっています。参加教員は それらの技術協力プロジェクトの現場や教育現場を中心に青年海外協力隊の活動視察や意見交換等を 行った他、サモア人家庭へのホームステイも体験してきました。

技術系グローバル人材育成コースではフィリピンを訪問し、ストリートチルドレンの保護施設を訪れフィリピンが抱える課題の一端を知り、現地の技術教育や日系企業の人材育成の様子を視察したり、そこで活躍する日本人との意見交換を行い、技術分野におけるグローバル人材の育成について考えを深めていました。

参加教員は帰国後、国内研修及び海外研修を踏まえ、開発教育の実践授業の計画、実施、結果の共有と改善の検討を繰り返してきました。2017年2月4日には教師や学生を中心に34名の参加を得て、公開報告会を実施し、実践してきた様々な開発教育の取り組みとその結果が報告されました。この流れが広く普及し、開発教育・国際理解教育を実践される方々の参考となることを期待しております。

ご参加いただいた8名の教師のあふれる熱意と真摯な取り組みに敬意を表するとともに、引き続き学校現場などで国際理解促進にご尽力いただきますよう、よろしくお願いいたします。また、各参加教師の所属学校の校長先生を始め関係者の皆様のご理解とご協力に心からお礼申し上げます。

2017年3月

# 目 次

# はじめに

研修概要	1
海外研修報告	7
実践授業報告	
【一般コース(サモア)】 ・輪島市立鳳至小学校 井口 紗希子教諭	.4
・能美市立辰口中央小学校 吉田 裕佳子教諭	1
・加賀市立分校小学校 吉光 雄志教諭	С
・白山市立鶴来中学校 小林 千賀子教諭 ······· 4 「Message from Samoa」	8
・富山県立ふるさと支援学校 谷内 知香教諭	5
【技術系グローバル人材育成コース(フィリピン)】 ・石川工業高等専門学校 髙野 典礼准教授 6 「フィリピンを知る・海外で働く」	3
・福井工業高等専門学校 佐々 和洋准教授 7 「今日のフィリピン 14:20」	1
・愛知県立半田工業高等学校 山口 貴士教諭 7 「職場における外国人との多文化共生を考える」	8
JICA 開発教育支援事業案内	7

# 



# 研修の目的

JICAでは開発途上国で起こっている様々な開発をめぐる問題、望ましい開発のあり方を私たち一人ひとりが理解し、共に生きることのできる公正な地球社会づくりに貢献するため「開発教育支援事業」を実施しています。

その一環として本研修では小・中・高等学校及び特別支援学校の教師などを対象に、国内研修と海外の現場訪問からなる海外研修を行い、その経験を次代を担う児童・生徒の教育に役立ててもらうことを目的として実施しています。

加えて、JICA 北陸では独自に、対象を工業高校、工業高等専門学校に限定した「技術系グローバル 人材育成コース」を実施しています。本コースは企業の海外展開が活発化する中、特に技術分野におけるグローバル人材育成について考えていただくことを目的に 2012 年度より実施しています。

研修参加者には、JICA 北陸と連携し、教育現場で開発教育・国際理解教育を推進する中核となっていただくことも期待しています。

# 応募資格

北陸三県(富山・石川・福井)の小・中・高等学校及び特別支援学校等で教育活動をしている 50 歳以下の方で、所属先の校長または教頭の推薦が得られる、過去に JICA が行う海外派遣事業に参加した経験のない方を対象としています。技術系グローバル人材育成コースは校種を工業高校、工業高等専門学校に限定して応募を受け付けています。

# 研修国

一般コース:サモア独立国

技術系グローバル人材育成コース:フィリピン

# 2016年度 参加者一覧

### ■一般コース (サモア)

富山県	富山県立ふるさと支援学校	谷内 知香
石川県	輪島市立鳳至小学校	井口 紗希子
	能美市立辰口中央小学校	吉田 裕佳子
	加賀市立分校小学校	吉光 雄志
	白山市鶴来中学校	小林 千賀子
業務調整	JICA北陸 市民参加協力調整員	木水 蔦代

### ■技術系グローバル人材育成コース(フィリピン)

石川県	石川工業高等専門学校	髙野 典礼
福井県	福井工業高等専門学校	佐々和洋
愛知県	愛知県立半田工業高等学校	山口貴士
業務調整	JICA北陸	齋藤 徹

# 教師海外研修 1年の流れ

### 国内事前研修

1回目: 2016年6月25日 (土) /2回目: 2016年7月23日 (土)

内容:①参加者自己紹介

- ② JICA 事業概要及び開発教育支援事業概要説明
- ③海外研修参加にあたっての派遣手続き及び事務連絡
- ④派遣国概要紹介
- ⑤実践手法に関するセミナー
- ⑥過年度参加者との意見交換



参加型の手法や教材について学ぶ参加者の様子



過年度参加者との情報交換の様子

### 海外研修:フィリピン

2016年7月31日(日)~8月6日(土)

内容:フィリピンでのJICA事業について知るとともに、教育事情、特に技術・技能教育についての理解を深めるため、公立高校の他、職業訓練校などを視察。その他商工会議所や日系企業を訪問し、海外展開の現状や企業が求めるグローバル人材について意見交換。また、NPOが取り組むストリートチルドレンの保護施設を訪問し、子どもたちと交流するとともにフィリピンが抱える課題について理解。



訪問先で日本の高専について紹介

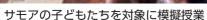


ストリートチルドレンの保護施設で子どもたちと触れ合う

海外研修:サモア 2016年8月14日 (日) ~8月24日 (水) 実践授業

内容:技術協力プロジェクトの現場や教育分野や福祉分野で活動する JICA ボランティアの活動を視察。サモアが抱える課題に理解を深め、課題の解決に取り組む日本人との意見交換を通じて国際協力の在り方についてチーム内でも意見交換。また、サモア人家庭でのホームステイを通じ、サモア社会、文化、価値観などに理解を深める。







広い校庭でラジオ体操

国内事後研修 2016年9月3日 (土)

内容:海外研修での学びを振り返り、収集したデータなどを共有するとともに、実践授業の計画を発表し、意見交換。参加者同士、JICA スタッフなど様々な人の意見を聞き、授業実践に向けた準備を実施。



サモア、フィリピンそれぞれの海外研修について報告



授業計画についての意見交換

実践授業 2016年9月~2017年1月

内容:研修成果の還元として、海外研修での体験を踏まえ、収集したデータや資料等を活用し授業を実践。開発途上国の現状や、海外で活躍する日本人の様子を伝え、援助について考えさせたり、幸せについて考えさせたり、対象となる児童・生徒の状況に合わせた内容で実施。



小学校での実践の様子



工業高校での実践の様子

### 実践報告会 2017年2月4日 (土)

内容:前半は海外研修についてコース毎に報告。後半は全参加教員の帰国後の実践内容についてポスターセッション形式で発表。授業のテーマや概要、児童・生徒の反応や今後の展望などについて発表し、発表を聞いた人からはコメントをフィードバックしてもらうことで今後の継続的な実践の足掛かりとした。



帰国後の実践活動についての発表



実践報告用のポスターは参加者の工夫が満載

**—** 4 **—** 

# 海外研修報告



# 研修国概要

# サモア独立国

首 都:アピア

面 積: 2,830平方キロメートル(東京都の約1.3倍)

人 ロ:191,800人(2014年:世銀)民 族:サモア人(ポリネシア系)90%、

その他(欧州系混血、メラネシア系、中国系、欧州系等)

言語:サモア語、英語(ともに公用語)

宗 教:キリスト教(カトリック、メソジスト、モルモン教等)



### 【サモア概要】

サモア独立国(以後「サモア」)は、東京都の約 1.34 倍の広さの国土に、人口約 18 万人が住む、南太平洋の島嶼国の一つ。「ファレ」と呼ばれる壁がなく柱だけの建築や、「ラバラバ」と呼ばれる腰巻きが未だに多く見られ、マタイを長とする首長制度が根を張っているなど、昔日のポリネシアの伝統、習慣、生活様式が残っている。

サモアは経済成長により 2014 年、後発開発途上国(LDC)の指定を解除された。しかし、他の太平洋島嶼国と同じく、国土が小さく、人口は少なく、国際市場から地理的に遠いなど、開発上の困難を抱えている。サモア人の多くは、就学や就労の機会を求めてニュージーランドやオーストラリアに移住しており、サモア国内にいる人口と同じくらいの人数のサモア人が移住していると言われており、それら海外居住者からの仕送りがサモア人の暮らしやサモア経済の大きな支えとなっている。

項目		調査年
1人あたりGNI	3,930 US\$	2015
出生時の平均余命	73.5歳	2014
乳児死亡率 (出生1000件当たり)	15.4	2014
栄養不足人口(%)	5.0	2014
男性成人識字率(%)	98.9	2015
女性成人識字率(%)	99.1	2015
携帯電話契約者数(100人当たり)	58.5	2014

出典:外務省ウエブサイト

ODAメールマガジン第221号

World Development Indicators Online

# 2016年度 教師海外研修 サモアコース 日程

日付	曜日	時間	内容
8/14	В		成田空港発(オークランド経由)
8/15	月		サモア到着
	AM		JICAサモア支所長表敬 サモア国内でのJICAボランティア事業概要紹介
8/16	火	PΜ	サモア国内でのJICA事業紹介 在サモア日本大使館表敬 青年海外協力隊員によるサモアの教育制度についての紹介
AM AM JICA ボランティア活動視察②		AM	JICA ボランティア活動視察① バイマウガ中高等学校(青年海外協力隊 / 体育) JICA ボランティア活動視察② ファガリイ小学校(青年海外協力隊 / 小学校教育)
		PM	水道公社維持管理能力向上プロジェクト視察(技協)
8/18	木	JICAボランティア活動視察③ フィアマラマラマ(シニア海外ボランティア/障害児・者教育) JICAボランティア活動視察④ サモア小学校(青年海外協力隊/水泳)	
PM		PM	サバイイ島へ移動 (フェリー)
0./10	^	AM	JICAボランティア活動視察⑤ サマタイウタ小学校(青年海外協力隊 / 小学校教育) アロファアガ潮吹き穴観光(タガ村)
8/19	金	PΜ	JICAボランティア活動視察⑥ 農業水産省 動物健康・生産課サバイイ支所(シニア海外ボランティ ア/獣医・衛生)
8/20	土	終日	ホームスティ
8/21	В	終日	ホームステイ
8/22	月	AM PM	ウポル島へ移動(フェリー) アピア到着 JICAサモア支所報告会
		. / / /	JICAボランティアとの懇親会
8/23	火		サモア発(オークランド経由)
8/24	水		成田空港着

# 海外研修報告

**1日目** (2016/8/16)

訪問先 在サモア日本大使館、JICAサモア支所

JICA サモア支所では、所長はじめ、所員の皆さんから、サモアの現状、サモア国内で実施されてい る各事業の概要などをお聞きし、サモアでの国際協力の現状を把握することができた。また教育分野で 活動する青年海外協力隊員から、サモアの教育制度の概要と学校の現状をお聞きし、学校訪問前に基礎 的な情報を収集することができた。さらに、サモアに長く滞在する所員やボランティアの方々が見たサ モア人の国民性などにも話が及び、描いていたサモアという国のイメージとのギャップに驚く場面も あった。

在サモア日本大使館では、澁田大使からサモアの現状だけでなく、ご経験に裏打ちされた貴重な話を 聞くことができ、大使館の役割や国際協力の意義等、改めていろいろな視点に立って国際協力について 考えるきっかけになった。









- (左上) 澁田大使との記念撮影
- (右上) サモアでの JICA の事業展開の様子に熱心に耳を傾ける参加教員
- (左下) 鈴木所長からサモアの開発課題について話をきき、考える参加教員
- (右下) サモアの教育制度について説明してくれた協力隊員と

# **2日目** (2016/8/17)

(訪問先) バイマウガ中高等学校、ファガリイ小学校、水道公社維持管理能力向上プロジェクト関係先

午前中、まずはバイマウガ中高等学校を訪問した。そこで活動する篠崎 愛弓 隊員(体育)の同僚 体育教師による体育の授業を見学・参加した。授業はサモアらしくラグビーの授業。サモア語での先生 の指示がわからず参加したメンバーはあたふたする様子もあったが、体を動かしながらのコミュニケー ションで生徒たちとも意気投合していた。

次に訪問したのはファガリイ小学校。前日サモアの教育制度について説明をしてくれた萩尾圭隊員 (小学校教育) の配属先で、サモア人教師の理科の授業を見学した。萩尾隊員から刺激を受けたと話す サモア人教師のはつらつとした授業の様子が印象的だった。それ以上に参加教員の印象に残っているの は、サモア人のおもてなしであった。授業を見学していると、前触れもなく数名の子どもたちが教室を 出て行ったかと思うと、私達のために食べ物と飲み物を持ってきたのである。授業中にもかかわらず子 どもたちがそういったお手伝いをしていること、授業を受けている子どもたちの傍らで準備された軽食 を食べる居心地の悪さはまさに異文化体験というところであった。ここでは授業見学のあと、参加教員 チームによる健康に関する模擬授業にも挑戦した。身体測定で自分の体重と慎重を把握し、健康的な生 活を送るための食生活と運動について授業を行った。

午後は水道公社維持管理能力向上プロジェクト の関係先を視察した。2014年8月から5年にわ たり実施予定のプロジェクトで、建設中のタパタ パオ浄水場や季節のアラオア浄水場とその水源な どを見学することができた。生活に欠かせない水 を安全に供給するためのプロジェクトにかかわる 方々との出会いで、さらにサモアの課題とこれか らを深く考える機会になった。







- (右上) バイマウガ中高等学校でのラグビーの授業で生徒と交流を深めた
- (左下) 日本の児童たちが作ったビュンビュンごまで遊ぶファガリイ小学校の子どもたち
- (右下) 建設中の浄水場の見学

# 3日目 (2016/8/18)

(INGO運営の私立特別支援校)、総合運動競技場での水泳隊員の活動視察

この日の最初の訪問先はシニア海外ボランティアの宮崎博さん(障害児・者支援)の配属先である フィアマラマラマ校。宮崎さんが担当する高等部の生徒と交流を行った。サモアにおける障害者の立場 は厳しいが、宮崎さんは就業体験を成功させるなど、これまでの経験を活かし積極的な活動を行い、日 本の特別支援校と変わらない指導を行う姿が印象的な訪問となった。

次に訪問したのは、満留谷里枝隊員(水泳)が指導を行う総合運動競技場。日本のようにプールがあ る学校はなく、満留谷隊員の指導を受けるために子どもたちをプールのある競技場に連れてきて水泳の 授業を行っていた。しかし、そのような授業ができるのは私立の学校のみで公立学校では課題が多く難 しいのが現実だと聞かされた。島国であるサモアにとって、海は身近な存在であるが、水泳競技という 視点ではなかなか普及が難しく、協力隊としても悩みを多く抱えながら活動していることを知り、国際 協力の難しさに触れる機会となった。

その後、翌日からのプログラムのため日本の無償資金協力によるフェリーでサバイイ島に渡った。









- (左上) フィアマラマラマの高等部の皆さんと
- (右上) シニア海外ボランティアの宮崎さんの普段の指導内容について話をきく
- (左下) 満留谷隊員の指導の様子
- (右下) 水泳指導の後、活動の苦労などについて満留谷隊員から話を聞く

# **4日目** (2016/8/19)

**訪問先** サマタイウタ小学校、アロファガ潮吹き穴、農水省動物健康・生産課 サバイイ支所

サバイイ島でのプログラム初日、サマタイウタ小学校で活動する野川翔子隊員(小学校教育)の活動 視察を行った。野川隊員はサモア国内の JICA ボランティアの中で一番の僻地で活動している隊員で、 首都と比べると生活も不便なことが多いようであったし、学校に通う子どもたちもほとんど英語は理解 していないようで、サモア国内の地域差を感じる機会になった。授業見学のあとはこの研修で2回目と なる参加教員チームによる模擬授業を行った。

午後の訪問先はシニア海外ボランティア 中村 行雄さん (獣医・衛生) が活動する農林水産省のサ バイイ支所。そこへの移動途中、ワゴン車のパンクというアクシデントに見舞われ予定が大幅に遅れた が、中村さんの仕事場を見学したり、ご自宅にも招いていただき、いろいろなお話をお聞きした。活動 では牛の解体方法や去勢方法など日本とはあまりに違うやり方で、獣医としてできることを模索してお られるようであったが、現地の職員とうまく関係を作っている様子や、地方に派遣されている数少ない シニア海外ボランティアとして生活の様子を見せていただくことができた。









- (左上) サマタイウタ小学校で活動する野川隊員の算数の授業の様子
- (右上) 授業見学の後、参加教員がラジオ体操を教える
- (左下) シニア海外ボランティア中村さんの同僚が施設を案内
- (右下) 中村さんのご自宅の目の前のデッキで

# 5日目~6日目 (2016/8/20~2016/8/21)

**訪問先** サバイイ島 ファガ村

ファガ村でのホームステイ体験。アヴァセレモニーでの歓迎を受け、それぞれのホームステイ先で週 末を過ごした。土曜日は各メンバーホストファミリーと一緒に海で遊んだり、ビンゴ大会に参加したり、 買い物に出掛けたりしていた。日曜日はサモア独特の1日を体験した。日曜日に作る特別な料理「ウム 料理|を作る様子を見学したり、教会のミサに参加したりした。

たった二日間の滞在であったが、もてなしの仕方、水の使い方、料理の作り方、食事のとり方、ゴミ の扱い、子どものしつけの仕方、近所付き合いの仕方等々、日本のライフスタイルとの違いを直接体験 する機会でもあり、サモア人との直接的な触れ合いから、ホストファミリーの温かさや人と人の距離の 近さ、繋がりの強さを感じる機会となった。









- (左上) 歓迎の儀式として行われたアヴァセレモニーでアヴァをいただく
- (右上) セレモニーの後、それぞれのホストファミリーにもとに分かれ過ごした
- (左下) 日曜日に行くときは白い服を着用するのがこの村のマナー
- (右下) 日曜日の昼ごはん。朝から仕込んだ豪華なウム料理が並ぶ

# 7日目 (2016/8/22)

**訪問先** JICA サモア支所、JICA ボランティアとの意見交換会

研修最終日、サモア支所を訪問し支所長に対し、この海外研修の成果を報告。研修中の様々な出会い や体験から学んだこと、日本の子どもたちに伝えたいと思ったことなどについて報告し、帰国後の実践 活動への気持ちを新たにした瞬間のようだった。最後のプログラムとして、サモアで活動するボラン ティアやサモア支所スタッフとの懇談会が行われた。研修中に訪問した方だけでなく、訪問できなかっ た方々も参加してくださり、さらに様々な苦労話や生活の様子を伺いながら、親交を深めた。









- (左上) ホームステイが終了し、村を出発する前に
- (右上) サバイイ島とウポル島を結ぶ重要な交通機関である "LADY SAMOA II" は日本の無償資金協力によるもの
- (左下) サモアで活動する JICA 関係者の皆さんとの懇親会
- (右下) サモア滞在中私たちに帯同してくれたドライバーさんと

# 研修国概要

# フィリピン共和国

首 都:マニラ

面 積:2,990,404平方キロメートル(日本の約8割)

7,109の島々がある

人 □:1億98万人(2015年フィリピン国勢調査)

**族**:マレー系が主体。他に中国系、スペイン系及びこれらとの

混血並びに少数民族がいる

言語: 国語はフィリピノ語、公用語はフィリピノ語及び英語

宗 教:ASEAN唯一のキリスト教国。国民の83%がカトリック、その他のキリスト教が10%。

イスラム教は5%



### 【フィリピン概要】

フィリピンは 7,000 を超える島からなる島国。都市部や海外への出稼ぎ労働者が多く、自然災害が多い国とも言われている。フィリピンの経済成長率は、世界金融危機の影響を受けて一時低迷したものの、2012年には 6.8 %の成長率を達成しています。しかし、他の先発 ASEAN 諸国(インドネシア、タイ、マレーシア)に比べると、過去 50 年間の GDP 成長率は低い水準であり、貧困削減のペースも遅く、所得格差も依然として大きい状況です。また、年平均 2 %程度で増える人口を支えていくことも大きな課題となっています。

項目		調査年
1人あたりGNI	3,540 US\$	2015
出生時の平均余命	68歳	2014
乳児死亡率 (出生1000件当たり)	22.2	2015
栄養不足人口(%)	13.5	2015
男性成人識字率(%)	96.2	2015
女性成人識字率(%)	97.0	2015
携帯電話契約者数 (100人当たり)	118.1	2015

出典:外務省ウエブサイト

World Development Indicators Online

# 2017年度 教師海外研修 フィリピンコース 日程

日付	曜日	時間	内容
7/31	$\Box$	19:07	マニラ着
		10:00	フィリピン事務所:フィリピンの現状、日程の確認
8/1	月	13:30	フィリピン日本人商工会議所:フィリピンの実情と日系企業の動向
O/ 1	, 7	15:30	TESDA:TESDA の事業概要説明と、日本側からのプレゼン、質疑 応答、施設見学
		9:45	路上生活者現場:ICANによる説明
		10:25	ICAN ドロップセンター:施設概要説明、質疑応答、子どもたちとの交流
8/2	火	13:50	ICAN 長期保護施設:概要説明:子どもたちによるパフォーマンス、 施設見学、質疑応答
		16:20	フィリピン大学 IT トレーニングセンター:事業概要説明、日本側プレゼン
		7:00	ホテル発でバタンガスへ移動
		8:20	San Pedro Relocation Center高校分校到着
8/3	水	10:10	San Pedro Relocation Center 高校本校:概要説明、日本側のプレゼン、質疑応答、施設見学
0/3		73.	12:30
		15:20	日本郵船会社商船大学:DVD、概要説明、学生へのインタビュー、 質疑応答、施設見学
		8:45	Phil-Nippon Tachnical College(協同組合フレンドニッポン):技 能実習生育成の概要説明、施設見学、質疑応答
		12:45	EPSON:概要説明、施設見学、質疑応答
8/4	木	14:30	バンダイ:概要説明、施設見学、質疑応答
		16:00	ヤマハ:概要説明、施設見学、質疑応答
		18:10	視察関係者との意見交換会
		7:30	ホテル発でマニラへ移動
		9:20	市場調査:マカティコマーシャルセンター内ランドマーク等
8/5	金	11:30	ユニカセ:事業概要説明、質疑応答、昼食
		13:30	JICA フィリピン事務所:振り返り、報告書作成、発表準備、団内打合せ
		16:00	JICAフィリピン事務所:報告会
8/6	土	6:00	ホテル発
0/0		15:50	羽田空港着

# 海外研修報告

# 1日目 (2016/8/1)

(計間件) JICAフィリピン事務所、フィリピン日本人商工会議所 TESDA (労働雇用省技術教育技能教育庁)

JICA フィリピン事務所では、次長、NGO デスク担当の方から、今回の研修のスケジュールとそれ ぞれの訪問の目的、フィリピンの現状、フィリピンで実施されている JICA 事業の概要、また留意事項 等について細かく説明を受け、今回のプログラムの全容とフィリピンについての様々な国際協力につい て理解をした。

フィリピン日本人商工会議所に於いては、フィリピンの労働力について主に話を伺い、言うまでもな く女性が非常に良く働き、男性はのんびりとしたフィリピン人に気質、海外への出稼ぎ労働者が1千万 人近くおりその仕送りが国内の生産額と同等レベルであるといったような、フィリピン特有の状況につ いても説明を受け、日本との差について再確認した。

この日3番目の訪問はフィリピンの技術・技能訓練機関のTESDA(労働雇用省技術教育技能教育庁)

の女性訓練センターで、事業の説明と施設の視察 を行った。日本側からも日本の高専の教育と課題 についての発表も行い技術教育についての意見交 換も行った。実際の工業系の教育現場を最初の視 察ではあったが、日本の技術協力が入っていた施 設でもあり、実技訓練をする設備も若干古いなが ら整っていた。

熱帯のスコールに遭遇、移動の車は常に渋滞と いう感じで、フィリピンの現状を肌で感じはじめ たフィリピンチーム始動の一日であった。







- (右上) 先ずは JICA 事務所でプログラムスタート
- (左下) 商工会議所では本音の話も
- (右下) TESDA での日本側発表

# **2日目** (2016/8/2)

**訪問先** NPO法人アイキャン (ドロップインセンター、長期保護施設)、 フィリピン大学ITトレーニングセンター

マニラ市内の線路脇の路上生活者が多く住んでいる現場に到着。現地の様子を見ながら短時間スト リートチルドレンの現状説明を受け、その後 NPO 法人アイキャンのドロップインセンターで活動につ いてのお話を受け、その場にいた7歳の男の子にインタビュー。その後他の子どもたちとお遊戯や工作 で交流を行った。子どもたちは皆人懐っこく、直接の会話は難しかったがすぐ我々と触れ合い、笑顔の 時間を共有した。

午後は一時施設ではなくストリートチルドレンの長期保護施設 ICAN CENTER 視察。住居、生活習慣、 衛生、教育を提供している。子どもたちからと我々からの自己紹介があり、子どもたちの路上生活の実 態を話してもらった。その中で、「路上の子どもを保護する仕事をしたいか」ほぼ全員が挙手をした。

最後の訪問はフィリピン大学のITトレーニングセンター(UPIC)。大学側より自己紹介があり、大 学で行われているITエンジニアを育てることを目的としたUPICについて説明があった。UPICはJICA の支援でスタートし、2009年に支援は終了したが、その後もフィリピン国立大学により認められ継続。 本プログラムは日本語教育を強化しており、スキルアップに貢献している。日本側と大学側双方により

実状のプレゼンが行われ、質疑応答による議論が 交わされた。

この日はフィリピンの底辺と思われるストリー トチルドレンから、最高学府の最先端技術の教育 機関という両極端を実際に経験し、何事も平等に 近い日本との大きな差を実感した一日となった。







- (右上) 子どもたちとのふれあい (ドロップインセンターにて)
- (左下) 長期保護施設の子どもたちと一緒に
- (右下) フィリピン国立大学で活発な議論の後

# 3日目 (2016/8/3)

新聞先 San Pedro Relocation Center High School、Sampaguita National High School、 日本郵船会社商船大学

昨日までのマニラ近郊の訪問から一転、マニラから高速道路で南下し地方の様子を視察。

先ずは技術訓練高校の San Pedro Relocation Center High School を訪問... のはずが運転手が道 に迷って、かなり遅れての到着となった。この高校は JICA の技術協力提供校で学校側から校長先生の 挨拶、学校の紹介があり、日本側からも工業高専と工業高校のプレゼンを行い、製図室、機械工作室等 の実際の教育現場も見学した。

2番目の訪問は普通の公立高校である Sampaguita National High School を訪問した。学校の教育 方針についてのガイダンスの後、日本側からも日本の技術教育についてのプレゼンを実施した。学校の 様子も垣間見られたが、学校の規模(学生の人数)に比較して施設はかなり不足している印象を受けた。

この日最後の訪問先である日本郵船会社商船大学は、より企業に求められる人材を育てることが目的 であり、大きな特徴は就業率100%(日本郵船で働くことができる)かつ高給を得られることが紹介さ れた。

前半に訪れた2つの公立高校において、廊下で会う生徒たちは日本の高校生と同様に明るくのびのび と勉学にいそしんでいるようであるが、各教室の中はかなり詰め込まれており、また教育するための設 備においても圧倒的に足りていないであろうことが容易にうかがえた。

それに対して日本郵船会社商船大学では、軍隊かと見紛うばかりに各学生の姿勢や挨拶など一挙手一 投足に至るまで規律が徹底されていた。また、日本企業からの出資を受けているため設備は充実してお り、学生たちは日本語を含め船舶に関する高い知識と技術を叩き込まれていた。









- (左上) 技術訓練校では机が足りていません
- (右上) 日本郵船会社商船大学では食事の時も背筋を伸ばしています
- (左下) 現地の忘れられない味〔オックステールスープ〕
- (右下) 地方の民族舞踊を披露してくれました

# 4日目 (2016/8/4)



**訪問先** 協同組合フレンドニッポンPhil Nippon Technical College (PNTC) LIMA Technology Center (セイコーエプソン、バンダイ、ヤマハ発動機)

この日は日本企業がフィリピンへ来て企業展開している現場を見ることができ、また日本で働きたい と思うフィリピンの若者の様子などが見られる1日であった。

まず初めに Phil Nippon Technical College (PNTC)、正式名ではないが日本語として「フィリピ ン日本工業短期大学」になるかと思う。ここでは日本へ行き、日本の企業で活躍するフィリピン人技術 研修牛を育成するため日本語教育や技術・技能教育を行っている。校内見学を始めからすぐに遠くか ら大きな声が聞こえてきた。教室で30~40名程度の学生が一斉に日本語で会話している声であった。 日本の技術研修生になるために一生懸命、日本語を学ぼうとする姿勢が見られた。また校内を見学中に は、すれ違う学生達が立ち止まり、お辞儀をし、大きな声で日本語での挨拶受けた。講師も日本で技術 研修生として2年研修を行った経験者が中心となっている。技術教育も施設は充実しており、即戦力の 育成が図られている事が実感できた。

午後は日本企業である丸紅㈱が関連している LIMA Technology Center (リマ工業団地) を訪問し た。この工業団地では50を超える世界の企業が入居しており、その中で30近くの日本企業が活躍し ています。今回は日本を代表するような大企業、3つの日系企業、①セイコーエプソン㈱、②㈱バンダ イ、③ヤマハ発動機㈱を企業訪問、工場見学をした。それぞれの企業で共通していたことは女性の人数 比率が高く活躍している様子が見られた。各企業、人件費や地理的状況を踏まえ利点を生かし工場運営 をされていることが見て知ることができた。ただ転職を繰り返す Job-Hopping の習慣、1日にしっか りとした間食であるミリエンダを午前と午後に取ることなど企業側が理解し、そのメリット、デメリッ トに対して努力していることも分かった。

この日の夕食はフィリピンに来てから初めての普通の日本料理をリマ工業団地の日本レストランで工 業団地の訪問先関係者と意見交換をしながら堪能した。









- (左上) PNTCの実習はいつも真剣
- (右上) エプソンは大工場
- (左下) バンダイではドラえもんが出迎え (中身はガチャポン)
- (右下) 世界のYAMAHAは組立とフィリピンでの販売

# 5日目 (2016/8/5)



**(訪問)先** マカティコマーシャルセンター (市場調査)、社会企業レストランユニカセ、 JICAフィリピン事務所

最終日はマニラに戻り、先ずは実際に町の中で何がどのように売られているかの市場調査をマカティ コマーシャルセンターのグロリエッタ・ランドマーク周辺で実施。

市場調査として製品の値段と成分表示から品質を品定めした。マカティコマーシャルセンターなので 一般のスーパーマーケットや市場とは若干違う面もあると思われるが、商品は豊富であり、フィリピン の発展がうかがい知れた。日本製の食品も売られていたが、日本人の馴染みのカップ麺等の輸入品は3 倍の値段が付けられていた。

日本でのデパートに相当する売り場では、服飾、高級品の品揃えも豊富だが、日本とほぼ同じくらい の値段設定であり、フィリピン人の感覚から考えるとかなり高価である。それよりも、売り場面積に対 する従業員が多く、この品物の値段に人件費が上乗せされていることを考えると、値段に妥当性には若 干の疑問もあったが、これで雇用を創出しているという現状もあると思われた。

その後、最終訪問先である社会的企業のユニカセ(UNIQUEASE)を訪問して事業説明を受けた。 ユニカセは食堂を行っており、ユニカセでサラダバー付きの昼食をとった。ここはフィリピン(マニラ) で、NGOが救った貧困層のストリートチルドレンたちが成長した後に雇用され、様々なビジネストレー ニングを受けることを目的にレストランを経営する社会的企業である。そこで働く人達は、給什など自 ら行っており、考え、行動に起こすということができていた。正直、これが元ストリートチルドレンと いう、その日を暮らすためだけの生活を送ってきたとは思えない、計画的行動が見え、社会的企業によ る人材育成の一端にも触れた感じである。

最後に、JICA フィリピン事務所で今回の研修の報告を行った。5日間を振り返ると、底辺から頂点 までの教育現場、社会の状況、多様な考え方とその暮らし等々をインターネット等ではなく実際に体験 することができた。









- (左上) 市場調査(日本食は高い)
- (右上) ユニカセのフィリピン初のサラダバー
- (左下) 事務所への最終報告
- (右下) ここがマニラでのホテル (中はかなり古い)





# サモアからつなげよう!

実践場所	輪島市立鳳至小学校(石川県) <b>実践者</b> 井口 紗希子						
対 象		小学5年生					
実践教科		総合的な学習の問	間(全6時間	⑤)			
ねらい	<ul><li>○サモアの学校や人々の生活の仕方を知ることを通して、世界には、様々な異なる文化があることを理解する。</li><li>○サモアの生活の現状を知るとともに、自分たちの生活について考える。</li><li>○世界で活躍をしている人々について知る。</li></ul>						
	回	プログラム			備考		
実践内容	2 3	【開発途上国のことを知ろう】 ・「幸せな生活」とは、どのような生活・写真やクイズを通して、開発途上国にサモアについて、知りたいことを考えてサモアのことを知ろう 学校編】 ・「大人になったときに○○ができなっいて考える。 ・写真と動画を通して、サモアの学校にサモアのことを知ろう 生活編】 ・写真と動画を通して、サモアの生活に「幸せな生活」とは、どのような生活が、「幸せな生活」とは、どのような生活が、「世界で活躍している人々を知ろう】 ・」ICAの役割について知る。	パワーポイント パワーポイント 写真・動画 パワーポイント 写真・動画 パワーポイント				
	・						
成果	<ul> <li>サモアの生活や文化を知ること、自分が興味を持った国について調べることを通して、 世界には様々な異なる文化があることを理解することができた。</li> <li>自分たちの生活をふり返ることができた。</li> <li>世界で活躍をしている人々について知ることができた。</li> </ul>						
課題	・サモた。	・サモアのことや開発途上国について知ることはできたが、理解を深めることが難しかっ					
備考	・【世界	『で活躍している人々を知ろう』の前半で	では、JICA 🗉	国際協力出	出前講座を活用した		



# 授業実践の詳細

# 1 時限目▶▶▶「開発途上国のことを知ろう!」

# (a)(5)(1)

・開発途上国について考えることを通して、サモアの人々や生活に興味・関心を持ち、今後の学習への 意欲を高める。

### 1 児童・生徒の活動の流れ

- ①「幸せな生活」とは、どのような生活かを考える。
- ②写真やクイズを通して、開発途上国について知る。
- ③サモアについて、知りたいこと、聞いてみたいことを考える。
- ④サモアの子どもたちに、自己紹介カードを書く。

# 2 児童・生徒の活動の成果・反応

- ◇ 「幸せな生活」 とは、どのような生活かを考えた際に、自分のやりたいことができること、お金を持っていること、家族がいること、友だちと遊べること、おいしいものがたくさん食べられることなど、様々な意見が出た。
- ◇世界の約 150 カ国が、開発途上国であることや、1 日 1 ドル以下で生活する人は、11 億人もいることを知り、驚いていた。そして、日本の生活の豊かさに気づいている児童もいた。
- ◇サモアについて、児童たちが知りたいこと、聞いてみたいことは、下記のようなことなどが挙がった。
  - ・どんな生活を毎日送っているのか。
- ・サモアの学校は、どんなところか。

好きなことができるのか。

・どんなものを食べているのか。

・どんな遊びがあるのか。

- ・日本のことをどう思っているのか。
- ・安心、安全に過ごすことができているのか。

### 《児童のふり返り》

- ・開発途上国は、世界に約150カ国もあるなんて、とてもびっくりしました。
- ・貧しくて、学校に行けない子どもたちがいるから、私たちの生活は、 幸せなのだと思いました。
- ・幸せな生活ができていないところもあることが分かりました。国それぞれがちがう生活をしていることが、分かりました。
- ・ご飯を食べることができず、5才までしか生きられない子どもたち のために、何かしてあげたいと思いました。



# 3 使用した教材

- <教材1>パワーポイント
- <教材2>ワークシート
- < 教材 3 > JICA 地球ひろば

「どうなってるの?世界と日本」





# 2時限目▶▶▶「サモアのことを知ろう 学校編」

# (a(5)(1)

・サモアの学校について知ることを通して、自分の学校生活をふり返っり、比べたりする。

### 1 児童・生徒の活動の流れ

- ① 「大人になったときに○○ができなかったら・・・」について考える。
- ②写真と動画を通して、サモアの学校について知る。

### 2 児童・生徒の活動の成果・反応

- ◇児童たちには、下記の3つの質問を問いかけた。
  - 1. 大人になったとき、計算(たし算やかけ算など)ができなかったら、困ることはあるかな。
  - 2. 大人になったとき、泳ぐことができなかったら、困ることはあるかな。
  - 3. 大人になったとき、英語を話すことができなかったら、困ることはあるかな。
- 3つの質問について、「ある」「ない」とその理由を考え、サモアの学校ではどうなのかを興味を持つことができるようにした。どの質問についても、ほとんどの児童が、困ることはあると考えていた。
- ◇写真や動画を通して、サモアの学校の様子を知った児童たちは、サモアの子どもたちは高学年でも 九九がすらすら言えない子どもも多いこと、サモアの学校にはプールがないこと、サモアの子どもた ちは日本の児童たちよりも英語を話せる子どもが多いことなど、日本の学校との違いに驚いていた。

### 《児童のふり返り》

- ・サモアは小さい国だけど、日本の学校と学んでいることは同じだとわかり ました。
- ・サモアの学校での生活が分かりました。苦手なことでもやり続けられることが、日本と同じだなあと思いました。
- ・サモアの学校でも、日本の学校と同じで、勉強ができて、楽しく過ごせる ということがわかりました。
- ・サモアの学校は、日本とちがうところもいろいろあって、同じところも あって、サモアの生活がもっと知りたいです。

# 

<数材1>ワークシート

# 3 使用した教材



<教材2>体育の授業の動画



理科の授業の動画



算数の授業の動画

# 3時限目▶▶▶「サモアのことを知ろう 生活編」

# (1) (1) (1) (1) (1)

・サモアの生活について知ることを通して、自分たちの生活をふり返り、幸せな生活とは何かをも う一度考える。

### 1 児童・生徒の活動の流れ

- (1)写真と動画を通して、サモアの生活について知る。
- ②「幸せな生活」とは、どのような生活かをもう一度考える。

### 2 児童・生徒の活動の成果・反応

- ◇児童たちに、「○×クイズ」を提示しながら、サモアの生活の様子を紹介していった。 「サモアの家の中をのぞいてみよう!」と提示し、【第1問 サモアには、洗濯機はない!】○か×かを考えた。ホームステイ先の洗濯機の写真を見せると、「え~!!!」と、驚いていた。一方で、手洗いをしている家庭の方が多いことも伝えた。開発途上国をとても貧しい国だと思っていた児童たちにとって、日本と同じような電化製品があることに、非常に驚いていた。
- ◇サモアの子どもたちの日曜日の過ごし方を紹介した。朝、教会へ行くこと、日曜日は遊びに出かけないこと、家族と過ごす日であることなど、日本とは異なる文化に驚いていた。
- ◇サモアの生活の様子を紹介した後に、「日本のほうがいいな~と思ったところ」「サモアのほうがいい な~と思ったところ」を尋ねた。

日本のほうがいいな~と思ったところ	サモアのほうがいいな~と思ったところ
・日曜日も友だちと遊べるところ	・海がきれいなところ
・休みの日は自分のやりたいことができるところ	・日曜日は家族とのんびりできるところ
(スポーツや習いごとなど)	・家族といる時間が多いところ
・ゲームがあるところ	・どこでも寝れるところ

◇授業の最後に、「幸せな生活」とは、どのような生活かをもう一度考えた。児童たちが第1時限目に考えていた「幸せな生活」と、サモアの文化や生活の様子を知った後で考えた「幸せな生活」は、大きく変容していた。

### 《児童のふり返り》

- ・わたしが思う幸せな生活は、家族といつもいっしょな生活だと思います。だから、サモアの人たちは幸せだと思います。
- ・自分の好きなことができ、家族や友だちといっしょにいれることが幸せだと思います。日本やサモアでも、どちらの国でもいいことがあると思いました。
- ・前は、「お金があること」と思っていたけれど、サモアの生活を見ると、日本より少し貧しくても、サモアの人たちは幸せそうに暮らしていたので、幸せな生活は、人によって異なるのだと思いました。

# 3 使用した教材

<教材 1 >パワーポイント(写真・動画を含む)

<教材2>ワークシート <教材3>サモアBOX、ラバラバ



<教材1>ワークシート

# 4時限目▶▶▶「世界で活躍している人々を知ろう」

# (a)(5)(1)

・JICAの役割や、世界で活躍している青年海外協力隊について知る。

### 1 児童・生徒の活動の流れ

- ①開発途上国や、JICAの役割について知る。(JICA出前講座)
- ②Skype を利用し、青年海外協力隊の高野隊員の話を聞いたり、質問をしたりする。

# 2 児童・生徒の活動の成果・反応

- ◇ JICA 北陸の木水さんから、開発途上国についての話を聞いた。児童たちが最も印象に残ったことは、 「日本も昔は開発途上国であった」ということだった。開発途上国だったときに、いろいろな国の支援によって発展していったことを知り、日本が開発途上国を支援する意味を理解することができた。
- ◇地元輪島市出身の青年海外協力隊の高野隊員と Skype を利用して交流をした。児童たちは、「輪島から海外ボランティアに参加していることを初めて知った!」と驚いており、それまで遠い世界のことと思っていた海外のボランティア活動が一気に身近になった瞬間だったように思えた。児童たちは、高野隊員との交流はもちろんのこと、Skype を通して、フィジーの町の様子を見たり、フィジーの人たちと画面を通して交流したりし、貴重な体験をすることができた。

### 《児童のふり返り》

- ・木水さんのお話を聞いて、世界では約40カ国しか先進国がないため、助け合って、それで世界は成り立っているんだと考えました。私も役に立つ仕事をしたいです。
- ・開発が遅れていても、サモアの人も、フィジー の人も楽しく暮らしているのでいいなと思いま した。

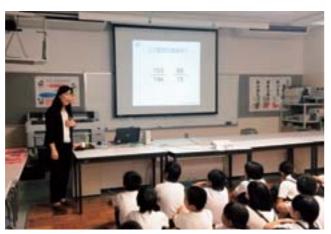
# 3 使用した教材

<教材1>パワーポイント

<教材2>Skype



<教材1>パワーポイント



JICA北陸の木水さんのお話



Skype を利用し高野隊員と交流

# 5 • 6時限目▶▶▶「他の国の生活を調べてみよう」

# (a)(5)(1)

・サモア以外の国の生活について調べることを通して、世界には様々な文化や生活があることに気づく。

# 1 児童・生徒の活動の流れ

- ①図書室で、興味を持った国の本を選ぶ。
- ②興味を持った国の生活について調べる。
- ③他の国を調べた友だちと交流する。

### 2 児童・生徒の活動の成果・反応

- ◇サモアだけでなく、自分が興味を持った国を調べ、交流することで、様々な国の生活や文化を知ることができた。服、住居、食べ物、仕事など、日本と同じところや、異なるところを知り、児童たちからは、驚きや疑問の声が多く出ていた。
- ◇自分が興味を持った国を調べることで、主体的に活動することができた。他の国のことももっと知りたいと休み時間に、別の本を取って調べる姿も見られた。





興味を持った国を本で調べる児童たち

# 3 使用した教材

<教材1>ワークシート







# 全体を通して

# 1 所感

今回の研修は、私にとって、開発途上国の開発問題について考える大きな機会になりました。現地で、 実際にサモアの人々や生活の様子を見ていくうちに、「サモアの人たちが求めていることは何なのだろうか。求めていることはあるのだろうか。」と疑問に持つようになりました。私たちは、日本を基準に 考えるから、もっと開発が進めばよいと安易に思うのだということに、初めて気づかせられました。開 発が進むことが、本当にサモアの人々にとってよいことなのだろうかと研修中、常に感じていました。

この研修を通して、これまでの自分の視野の狭さ、考えの浅さを痛感しました。これまで、自分のものさしだけで様々なことを考えたり、日本のことだけを基準に物事を考えているから他の国に違和感を持ったりしていました。しかし、それは日本という国の文化の中で生かされているからであって、世界には様々な国があり、様々な文化があることに、初めて気づくことができました。自分の中では、これまでにはない実感を伴った大きな気づきでした。児童たちを教育する側だからこそ、今回の研修だけに限らず、自分の視野をもっと広げていかなければならないと強く感じました。

最後になりましたが、このような貴重な経験の機会を与えてくださりお世話をしてくださった JICA 北陸の職員の皆様、JICA サモア支所の皆様、青年海外協力隊の方々に、心より感謝を申し上げます。



自己紹介カードを受け取るサモアの子どもたち



ホームステイ先の子どもたち





授業実践に協力していただいた輪島市出身の青年海外協力隊 坂口隊員(左)と高野隊員(右)

# 2 参考文献・資料

- 1) JICA 北陸「平成 27 年度教師海外研修報告書」
- 2) JICA地球ひろば「どうなってるの?世界と日本」

# 世界から日本へ日本から世界へ

実践場所	能美市立辰口中央小学校(石川県) 実践者 吉田 裕佳子						
対 象	小学4年生・5年生						
実践教科		道徳・社会(全8時間)					
ねらい	○世界の中での日本を知ることで開発途上国や青年海外協力隊の活動に興味をもつ。 ○サモアの国の文化や生活を知り、日本について考える。 ○幸せという価値観について考える。						
		プログラム			備考		
実践内容	1 【日本と世界の国々とのつながりを考えよう】 ・世界の中で日本はどのような国か考える。 ・開発途上国について知る。 【日本とサモアの生活の違いを知ろう】 ・日本とサモアの衣食住の違いについて知る。 ・サモアの文化や生活習慣を知る。  4・5 【日本とサモアの学校の違いを知ろう】 ・おみやげの反応を伝える。		4年生 世界地図 アクティビティカード 4年生(授業参観) Google Earth 撮影写真 サモアBOX 4年生 撮影写真・ビデオ 4年生 撮影写真 4・5年生 インタート 地球家族				
成果	・サモアのことや世界の事を様々な視点から学習を重ねるごとに新たな驚きや疑問が生まれ、児童たちは終始興味関心をもって取り組めた。 ・世界の様々な事情を知ることで日本を知ることができ、幸せの価値観について深く考えることができた。						
課題	・開発途上国の実際の姿を知ることで日本の裕福さや便利さに気付くことはできたが、れぞれの良さに目を向けるという視点では、4年生の児童たちが理解するには少し難かったように思う。 ・特に幸せについて考える場面では、日本の方がよいという感想になってしまった児童であると、それぞれ国によって良さがあるということをもう少し提示すべきだった。				理解するには少し難し なってしまった児童が		
備考		とサモアの生活の違いについての学習は 、家庭でも親子で会話できるように授業			の試食や衣食住の違い		

# 授業実践の詳細

# 1 時限目▶▶▶「日本と世界の国々とのつながりを考えよう」

# (a)(5)(1)

・先進国と開発途上国の違いについて知り、先進国である日本も他の国の助けを借りなければ生きていけないことや開発途上国にある問題はなぜ起こるのかを考えることができる。

### 1 児童・生徒の活動の流れ

- ①色のついた世界地図を見て何を基準に分けられているのか考える。
- ②開発途上国とはどのような国をいうのかを知る。
- ③アフリカと日本のつながりについて考える。
- ④開発途上国で起こる問題「学校に行けない」原因について考える。

# 2 児童・生徒の活動の成果・反応

◇児童の世界の国々に関する知識はどのくらいあるのか知るために、世界地図の色分けが何でなされているのかを問うと、「人□、面積、平和かどうか、暑いか寒いか…」など児童たちは直感で次々と答え、授業の導入としてはとても関心が高かった。



アフリカとのつながりを考える

- ◇特に開発途上国が多いアフリカについて、実践資料集に掲載されていた資料を活用し、日本でなじみ 深いものの中でアフリカとつながりがあるものについて考えた。
- ◇開発途上国で抱える様々な問題のうち、児童たちに身近な「学校に行けない」という問題に着目し、



考えた。まずアフリカではどのくらいの人が学校に行けないのか予想を立てた。アフリカを100人の国とすると小学校に入学できるのは、50人以下と考える児童たちが過半数だった。予想に反して76人だと伝える

と思ったより多い、と驚く児童が多かった。 では、中学校に入学できるのはどうかと問 学校に行けない理由を考える うと、今度は50人以上と予想する児童が過



**負のスパイラルについて考える** 

半数になった。しかし、正解は 26 人。「なんで?なんでそんなに減るん?」と興味津々だった。そこで、グループで学校に行けない理由を考えた。すると、「お金がない、働かされる、病気のせい、先生が少ない、道具がない、学校が遠い」など、こちらの予想以上にしっかりと考えることができていた。そして、学校に行けないことで起こる負のスパイラルについても、カードを並べながら考えた。



◇負のスパイラルから脱出するために、日本のボランティアが海外に行って支援していることを伝え、次時へつなげた。

学習の足あとの掲示

# 3 使用した教材

- <教材 1 > JICA 地球ひろば「国際理解教育 実践資料集~世界を知ろう!考えよう!~」
- <教材2>JICA地球ひろば「世界の食料」
- <教材3>JICA地球ひろば「どうなってるの?世界と日本」
- <教材4>作成したワークシート

# 2・3時限目▶▶▶「日本とサモアの生活の違いを知ろう」

# (a)(5)(1)

・サモアと日本の生活の違いを知って興味をもち、異文化の理解を深める。

### 1 児童・生徒の活動の流れ

- ①サモアはどこにあるのかGoogle Earthで知る。
- ②サモアについての〇×クイズを解き、興味関心を高める。
- ③クイズに沿って写真を見ながらサモアの衣食住について知る。
- ④ラバラバやタロイモチップスを体験したり試食したりする。
- ⑤サモアの文化や生活習慣について写真を見ながら理解する。

# 2 児童・生徒の活動の成果・反応

- ◇サモアの場所を Google Earth で調べることでどれだけ遠いか、またどれだけ小さい国なのかが分かり、インパクトが強かったようだ。
- ◇○×クイズにする問題もできるだけ意外な答えのものを選択して作成したが、児童たちも「そんなはずはない」と考えて×と答えたものが○だったりすると、特に興味津々で写真を見入っていたり、さらに質問をしたりしていた。
- ◇特に「男の人もスカートをはく」ことや「バスで満員だったら知らない人でも膝の上に座る」ことが衝撃だったようだ。



サモア〇×クイズ





ラバラバに興味津々な児童たち

- ◇日本のような台所が家にはなく、オーブンは外で毎回 作って調理していることについては、授業参観だった こともあり、保護者の方は「日本の生活に慣れている とそんなに手間がかかるところでは生活できない。 という感想をもっているようだった。
- ◇タロイモチップスは初めはおそるおそる食べていた が、好みはあるものの、意外とおいしかったようでと ても人気だった。添加物が入っていないサモアの素材 そのものの味を楽しんでいた。



タロイモチップスを試食する児童たち



サモアのうちわを楽しむ児童たち

◇サモアでは、各家庭に一人ひとりの部屋がないこ とや、日曜日にはお祈りをすること、年上の人から ご飯を食べる事など、日本ではなじみのない文化や 生活習慣について、驚きはあるものの、それを当た り前として生活している国があることを理解する機 会になった。

# 3 使用した教材

<教材 1 > サモア BOX

<教材2>サモアの民芸品等(ラバラバ・タロイモチップス・うちわ・スーパーのナイロン袋)

<教材3>撮影した写真



タロイモってこんなもの



サモアでは男の人もスカートをはく



サモアの食事作り サモア〇×クイズの写真と解説の掲示

# **4 • 5**時限目▶▶▶ 「日本とサモアの学校の違いを知ろう」

# (a)(b)(1)

・みんなで作ったお土産のサモアの子どもたちの反応を見る。日本とサモアの学校の違いについて知る。

# 1 児童・生徒の活動の流れ

- ①サモアに行く前にみんなで作ったパッチンがえるとビュンビュンごまの反応を知る。
- ②日本とサモアの学校の違いを写真を見ながら探していく。

### |2| 児童・生徒の活動の成果・反応

- ◇1学期末には、児童たちは牛乳パックを使ってパッチンがえると ビュンビュンごまを一生懸命作ってくれ、それらをサモアの子ど もたちにプレゼントしてくることをとても楽しみにしていた。
- ◇青年海外協力隊として活動する先生から、ずっと大切にして遊ん でいるというメールと写真が届き、さらに喜んでいた。そのメー ルには、サモアでは牛乳パックが手に入らないために、段ボール や缶詰のふたを代用して作って遊んでいるということも書いてあ り、そのアイディアに児童たちも「試してみたい」と興味を示し ていた。



お土産を作成する児童たち



楽しそうに遊ぶサモアの子どもたち



サモアの小学校でのお土産プレゼント

◇写真を見ながら、日本との違いの多さと想像がつかないことが多 いことに終始目が輝いていた。特に、手動のチャイムでぴったり の時間にならないこと、休み時間のない時間割、給食の時間がほ とんどないなど、時間の使い方の違いが多いことに気付いていた。 また、給食がなく、各自で買って食べることに関しても栄養のバ ランスの面からも日本の良さを感じていた。



◇理科の実験道具が十分なく、みんなで頭を寄せ合って実験してい 缶詰のふたで作ったビュンビュンごま る様子を見て、日本の学校には、十分に学習用具が備わっている ことにありがたさを感じていた。

◇学校の施設や教育については、日本はとても恵まれていることが分かり、教育のレベルを上げるため にも日本のボランティアが必要なことが分かった。

# 3 使用した教材

<教材1>撮影した写真・動画









お昼ご飯はこれだけ

# 6時限目▶▶▶「サモアの水について知ろう」

# (a)(5)(1)

・社会科で浄水場のしくみについて学習したことを生かし、サモアの水の現状から日本の技術協力 の大切さに気付く。

# |1| 児童・生徒の活動の流れ

- ①浄水場見学の事を思い出し、日本の生活の中で使われている水の安 全性を考える。
- ②サモアの浄水場の写真を見ながらサモアの生活で使われている水を 知り、起こる問題などについて考える。
- ③日本が行っている技術協力について知る。

未処理の地下水

# |2| 児童・生徒の活動の成果・反応

- ◇4年生の1学期に浄水場見学に行っているため、自分たちの身の回 りの水は安心して飲むことができることや、日本では水が原因で病 気になることはほとんどないということは分かっている。
- ◇自分たちが飲んでいる水はもともと処理しなくても飲めるくらいき れいだということを見学の際に聞いていたので、サモアの処理され る前の水の写真を見せると、「うわ~~、きたない…」と口をそろえ ていた。今はまだこの状態の水が水道から出てくることが多いと伝 えると「絶対飲めん。」と日本の水の安全性に改めて気付いたようだった。



処理された水

◇水が汚いことでどんな問題が起こるか、困ると思うか、考えた。「お腹をこわす、伝染病が広がる、 この水で洗濯すると汚れそう。」などの考えが出てきた。

◇日本の技術でサモアに浄水場を建設し、自分たちも見学で見たような過程で水がきれいになっている ことを写真で見せると、「さっきと全然違う。」と技術の高さに驚き、日本が開発途上国で行っている 支援の一つを知る機会になった。

# 3 使用した教材

<教材1>サモアの浄水場で撮影した写真

# 7 • 8時限目▶▶▶ 「幸せって何だろう」

# (a)(5)(1)

- ・自分にとっての幸せを考え、人との違いに気付き、他国の幸せのあり方について考える。
- ・青年海外協力隊等のボランティアの姿のあり方を考える。

### | 1 | 児童・生徒の活動の流れ

- (1)自分にとって幸せとは何か、ダイヤモンドランキングを使って書く。
- ②友達と交流し、一人ひとりの幸せの感じ方に違いがある事に気付く。
- ③「地球家族」の写真を使って世界の国々のくらしについて知り、日本人のいう幸せについて考える。
- ④インターネット記事「ボクのお父さんは、ボランティアというやつに殺されました」を読み、ボラン ティアの意識の持ち方について考える。

# |2| 児童・生徒の活動の成果・反応

- ◇「当たり前」や「幸せ」について普段考えながら 生活していないが、やはり家族がいることを1位 に上げる児童がほとんどだった。中には健康じゃ ないと生活もできないからという理由で健康を選 ぶ児童もいたが、一人ひとりの思いを交流するこ とでお互いに納得していた。
- ◇日本は幸せかどうかと聞くと、幸せだと答える児 童がほとんどだった。その理由は、便利な物がた くさんある、戦争がない、いう過ごしやすさや安 全面でのことが挙げられた。さらに、幸せかどう かを決めるのは環境の保持も関係することを伝え
- ると、日本は環境に悪いことをたくさんしているという意 識があるようだった。
- ◇「地球家族」という本には世界各国のくらしについて写真 で紹介されている。その中で世界一幸せの国と言われてい るブータンはどんなくらしをしているのか、写真を見せる と、「物が少ないのに?家が小さいのに?」という反応でと ても幸せには見えないという児童が多かった。では、なぜ 物が少なくて家も小さくても幸せなのか考えると、家族と いるだけで幸せだと感じているのではないかという意見が



ダイヤモンドランキングワークシート



いろいろな国のくらしについて知る

出てきた。はじめに自分たちも考えていたことだが、それが当たり前になり、大切だという意識が薄れてきているのではないかと気付けた。

- ◇「地球家族」の日本の写真を見せると、家の前には家族がどこにいるか分からないほどの家財道具が並べられたものだった。5年生での授業ではこの写真を見せた瞬間「恥ずかしい」といった児童もいた。これだけ物がないと日本人は生活できないのか、と世界を見て初めて気づいたようだった。
- ◇インターネット記事「ボクのお父さんは、ボランティアというやつに殺されました」という資料では、タイトルがとても衝撃的だが、読むと、「そういうことか…」としばらく考えている児童やいまいち意味がつかめていない児童がいた。しかし、ボランティアはただ自分の価値観で相手に押し付けるのは本当のあり方ではない、その人に寄り添った支援をすることが本当のボランティアなのだということは理解できていた。

### 3 使用した教材

<教材1>TOTO出版「地球家族」

<教材 2 >ダイヤモンドランキングワークシート







ブータンのくらし 西サモアのくらし

日本のくらし

# 全体を通して

# 1 所感

この教師海外研修でサモアに行けたことは、私にとって考え方や価値観を広げる大きな経験だった。一番に感じたのは人の温かさ、人懐っこさだった。日本は世界の中で安全な国と言われているが、本当に安全といっていいのだろうか、と考えさせられた。人が人を信用できなければ安全ではないのではないか。現に日本は人と接しなくてもいろんなことができる。会話、買い物、娯楽…。便利になりすぎると大切な物が奪われてしまう。実際にサモアに滞在していた 10 日間、スマホも使えない状態では人と会話することが唯一のコミュニケーションだった。日本にいれば楽しむツールは一人でも山ほどある。便利な世界を知ってしまうと、そんな世界を不便と思ってしまうが、日本人が忘れている大切な物を思い出させてくれる温かい国であることを児童たちに伝えたいと思い、実践をした。

道徳の「国際理解」の価値を中心に行った実践だったが、毎時間「先生、今日はサモアの勉強?」ととても楽しみにしていてくれた。毎時間驚きがあり、新たな学びがあり、児童たちも自然と家庭でいろいるな話をしていたようだ。しかし、担任する学年が4年生ということもあり、世界の様々なことを考えるには少し難しく、私が伝えたい、考えてほしい、気付いてほしいという所まで至らないこともあった。しかし、たった8時間の実践だったが、同じ地球に住んでいるのに、なんでこんなにも違うのか、日本には日本の、サモアにはサモアの食べ物や服装があっておもしろい、自分たちの当たり前はサモアの人にはそうではなくて、その逆もあることが分かった、など、児童たちなりに解釈し、感想を述べてくれた。また、日本は開発途上国へボランティアに行っていることも知り、誇らしげに思っていた児童もいた。

自分の目で見て感じて体験してきたことは、たくさん語ることがある、と実感した。教師海外研修は生きた授業につながるとても貴重な体験だった。また、授業をしていく中でもっと知りたいと思うことも出てきた。私にとっても児童たちにとっても将来につながる貴重な時間だったように思う。







みんなでラジオ体操

フィアフィアナイト

日曜の午後 海沿いのファレでお昼寝

# 2 参考文献・資料

- 1) JICA北陸「2015年度教師海外研修報告書|
- 2) JICA地球ひろば「国際理解教育実践資料集~世界を知ろう!考えよう!~」
- 3) JICA地球ひろば「世界の食料」
- 4) JICA 地球ひろば「どうなってるの? 世界と日本 |
- 5) TOTO出版「地球家族」

# 知ろう!サモアの表と裏のこと!

実践場所		加賀市立分校小学校(石川県)	実践者		吉光 雄志		
対 象		小学6年生					
実践教科		学活、総合、社会、道	道徳(全6日	寺間)			
ねらい	○世界	<ul><li>○サモアの文化に触れ、異文化にたいしての興味を持つことができる。</li><li>○世界には様々な思想や文化があり、その文化を尊重することができる。</li><li>○開発問題には様々な考え方があり、自分なりに支援の答えを出すことができる。</li></ul>					
	回	プログラム			備考		
実践内容	1 2·3 4	【サモアについて知ろう】 ・サモアのあいさつ、文化、学校の様子 ・日本との共通点や相違点を考え、何がを考えたのか、何を思ったのか書く。 【サモアの支援について考えよう】 ・JICAが開発途上国に行っている支援を ・サモアに行っている協力隊の支援を移 知る。 ・その支援を日本側の視点から考える。 【様々な方向から支援について考えよう】 ・インターネット記事や「パパラギ」が点で支援を捉える。 ・支援は必要なのか考える。 ・さのように開発途上国と接していけばの答えを出す。 【サモアについて分かったことや考えたこ・サモアについて分かったことや、サモ進め、新たに調べたいと思ったことをる。 ・自分がこの学習を通して、今後世界に点や考え方を持ったのか、伝え合う。	が知りたいの を知る。 対員の生活の から、サモア だいいのか自 ことを伝える こアについて さポスターに	か、何 が、 様子 の な う と う き う き き め る り る り る り る り る り る り る り る り る り る			
成果	つこ	・授業を通して行う中で、サモアだけでなく、外国の文化や風習について興味・関心を持つことができた。動画を使ったり、協力隊員と話をしたりしたことでより他国を身近に感じることができた。					
課題		年にサモアについての授業時間を取るこのを使って、サモアの文化を身近に感じる取			, ,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,		
備考	· LINE	・LINE電話を有効に活用し、協力隊員と児童をつなぐことができた。					



# 授業実践の詳細

# 時限目▶▶▶「サモアについて知ろう」

# (a(5)(1)

- ・サモアの生活や文化、学校の様子を知る。
- ・日本とサモアの共通点や相違点を知る。

### |1| 児童・生徒の活動の流れ

- ①世界地図からサモアの場所を確認する。
- ②サモアの生活や文化、学校の様子を知る。
- ③日本とサモアの共通点と相違点を考える。

# |2|児童・生徒の活動の成果・反応

- ◇ポスターセッション方式で(文化、食べ物、自然、家・暮らし・服装、その他)について項目ごとに 回り、分かったことや疑問に思うことについてまとめた。各項目ごとに動画も置いたことで写真だけ のポスターよりも、様子が伝わっていた。例えばダンスの動画を見て、児童たちも踊ってみたりリズ ムにのってみたりして、サモアの人はダンスが上手だと感じていた。
- ◇日常生活では、他の国の文化に触れることが少なく、今の生活では当たり前に感じていることでも、 場所や環境が変わると必ずしも当たり前になるわけではないという事を理解していた。







食事をまとめたポスターを見て学習 ポスターの下にはタブレットを置き、動画を見ながら学



- ・サモアと日本は、違うところがたくさんあることが分かりました。特に、学校は休み時間がないこと に驚きました。日本は、休み時間があってよかったと思いました。サモアの家は吹き抜けで沖縄の家 と似ていると思いました。サモアは一年中夏みたいだという事が分かりました。
- ・女性が泳ぐときに肌を露出した水着を着られないのがびっくりしました。どうして、水着が着られな くなったのか知りたいです。また、ダンスでおもてなしをするなんて不思議でした。
- ・サモアの学校に体験に行って、サモアの学校のルールなどを詳しく知りたいと思いました。 また、サモアの家は吹き抜けでしたが、雨の日はどうしているんだろうと思いました。

# 3 使用した数材

- <教材1>文化・食べ物・自然・家・暮らし・服装・その他の項目に分けたポスター、項目ごとに置い たタブレット
- <教材 2 >パワーポイント(サモアの場所、人口、気候など)
- <教材3>ラバラバ(サモアの民族衣装)

# 2・3時限目▶▶▶「サモアの支援について考えよう」

# (a(5)(1)

- ・JICAが開発途上国に行っている支援を知る。
- ・サモアに行っている協力隊の支援や隊員の生活の様子を知る。
- ・その支援を日本側の視点から考える。

### |1| 児童・生徒の活動の流れ

- ①JICAの開発涂上国への支援を知る。
- ②青年海外協力隊の活動を知る。
- ③青年海外協力隊の萩尾隊員に質問する。
- ④JICA北陸の木水さんからJICAや、青年海外協力隊の具体的な活動についての授業を受ける。

# |2| 児童・生徒の活動の成果・反応

◇ JICA や青年海外協力隊の活動の概要を学習した後、具体的にど のような人がどのような活動や生活をしているのか知るために萩 尾隊員にLINE電話で聞きたいことを質問した。

萩尾隊員には青年海外協力隊の方の日常生活の様子や隊員の活動 について質問していて、海外の生活環境や青年海外協力隊につい て少し身近になったように感じていた。海外では、時差があるこ とや病気、サモア人の時間についての考え方などを理解すること ができていた。



萩尾隊員に様々な質問をする児童たち

◇木水さんの授業で協力隊員の具体的な活動について知った時に、 「今までそんな活動をしているなんて知らなかった。日本人は素 晴らしいことをしていると分かり、私もやってみたいと思った。| と感想に書いている児童もいて、青年海外協力隊活動に興味を持 つことができていた。

木水さんのクイズを交えた楽しい授業

### 《児童の感想》

### 【萩尾隊員との電話交流から】

- ・萩尾先生は、世の中の役に立つために青年海外協力隊に行ってい ることがすごいと思いました。サマータイムという期間があって、 今は5時間も時差があることが分かりました。
- ・私は、サモアに行ってデメリットもあると思っていたけれど、萩 尾先生はデメリットは何もなく、毎日楽しいといっていたことが すごいと思いました。私もアメリカに行ったことがあるけれど、 日本に早く帰りたいという気持ちでした。ご飯やラーメンが食べ たくなるという気持ちに共感できました。



一生懸命メモを取っていました

・萩尾先生の話を聞いて、サモアの学校は月に1回、ミニ運動会があることが分かりました。協力隊員 の中には生活が厳しく、途中で日本に帰る人もいるなんてびっくりしました。デング熱にかかったと 聞いて、ニュースでしか聞いたことがなかったけれど、身近に感じることができました。

### 【木水さんの授業を受けて】

・木水さんが見せてくれた写真を見て、小さい子が赤ちゃんを抱い て世話をしていてすごいと思いました。また、私たちは当たり前 のように授業を受けているけれども、アフリカでは、1つの教室 に数えきれない人の子どもたちが授業を受けていることもあるな んてびっくりしました。他にも、銃を持っている写真などがあり、 私たちの生活ではありえないような状況が世界にはあることが分 かりました。



- ・青年海外協力隊は始まってから51年目で石川県出身の隊員も現在15名派遣されていて、通算で 398 人もいることが分かりました。派遣される職種も 100 種類以上もあり、そんなにいろいろな職 種で派遣されていることにびっくりしました。
- ・女性の方が協力隊員の人数が多いことにびっくりしました。女性の方が環境に適応する力があるそう です。エアロビはトンガの国民が踊ることや音楽が好きという理由で楽しく運動する目的で誕生した 事がすごいとおもいました。

### |3||使用した教材

<教材1>パワーポイント

<教材2>スマートフォン、大型テレビ(LINEでテレビ電話をするため)







木水さんの授業を熱心に聞く児童たち

木水さんの分かりやすい授業で理解を

モする児童たち

# **4**時限目▶▶▶「様々な方向から支援について考えよう」

# 136U

- ・インターネット記事や、「パパラギ」から、サモア人の視点で支援を捉える。
- ・支援は必要なのか考える。
- ・どのように開発途上国と接していけばいいのか自分なりの答えを出す。

### 1 児童・生徒の活動の流れ

- ①萩尾隊員とのLINEでの交流や、前時の木水さんの授業を振り返り、JICAの活動や青年海外協力隊の活動を振り返る。
- ②インターネット記事「ボクのお父さんは、ボランティアというやつに殺されました」とパパラギを読み、サモア人の視点から日本の支援について考える。
- ③両方からの視点で見て、本当に日本の支援は必要なのかについて考える。
- ④グループ活動や、全体交流で意見を交流し、最後に木水さんが考える日本の支援の意味を聞き、振り返りを書く。

### 2 児童・生徒の活動の成果・反応

- ◇これまで、日本側がたくさんのお金を海外に費やし、様々な成果を 挙げていることを学習しており、日本の支援が素晴らしいと考えて いた中でサモア人側からの視点で捉えたことで、本当に支援は必要 なのかについて、再考することができた。
- ◇支援が本当に必要なのかについてそれぞれ違う意見が飛び交う中で、木水さんが「現在の活動で、目先には意味をなさない活動もあるかもしれないが、長い目で見た時に、支援を受けた国や人々が日本に対して良い印象を持ったり、活躍したりするきっかけになればいいと考えている。」というお話を聞き、必ずしも結果ばかりにこだわるのではなく、日本の活動は、必ずどこかに意味があることなのだとまとめている児童もいた。



意見交流

木水さんのお話

### 《児童の振り返り》

- ・私は、日本がしている支援は必要だと思いました。必要ではない人 もいるかもしれないけれども、必要な人には必要だからです。私も 青年海外協力隊の活動をしてみたいと思いました。
- ・サモアにも、不満に思う人がいるのがびっくりしました。でも、助 けられる人も多いから難しいと思いました。これからもJICAや協力隊の活動を続けて欲しいです。
- ・インターネット記事の「ボクのお父さんは、ボランティアというやつに殺されました」を見て、相手の文化や風習を受け止めてボランティアに参加すればいいと思いました。日本がやっていることには必ず意味があると信じて、活動を続けて欲しいと思いました。

# 3 使用した教材

<教材1>インターネット記事「ボクのお父さんは、ボランティアというやつに殺されました」 <教材2>エーリッヒ・ショイルマン編 岡崎照男訳

『パパラギ はじめて文明を見た南海の酋長ツイアビの演説集』 2009年 SB文庫

# 5 • 6時限目▶▶▶「サモアについて分かったことや考えたことを伝えよう」

# (a)(b)(1)

- ・サモアについて分かったことや、サモアについて学習を進め、新たに調べたいと思ったことをポスターにまとめる。
- ・自分がこの学習を通して、今後世界に対し、どのような視点や考え方を持ったのか、伝え合う。

### 1 児童・生徒の活動の流れ

- ①4時間の学習を通し、自分がさらに調べたいと思ったこと、疑問に思ったことを書きだす。
- ②調べ学習をする。
- ③共通点のあるグループでまとまり、ポスターを作って発表する。
- ④発表や学習を通して、自分が今後どのような視点や考え方を持ち過ごすことが大切なのか話し合う。

# 2 児童・生徒の活動の成果・反応

- ◇さらに調べたいことや疑問に思ったことについて、似ている意見で(サモアと日本の違い、サモアの服装、サモアのお金、世界のダンス、世界の時間割に)グループ分けし、グループで調べ学習を進め、ポスターにまとめることができていた。
- ◇サモアの学習を進めていたので、サモアについてのみの調べ学習になることを想定していたが、世界の学校の時間割を調べるクループやサモアだけでなく、他の国のダンスについて調べる班もいるなど、世界に視野を広げていこうとする児童も見られた。
- ◇グループ発表会をする中で、授業で紹介しきれなかった部分の知識を補うことができていた。
- ◇世界に対し、どのような視点や考え方を持ったのかについて話し合いをした。どの児童も世界には、様々な文化や風習があり、考え方の違いもたくさんあるけれども、それを受け入れることが大切だとまとめていた。
- ◇単元を通して、世界に興味を持つ児童が増え、6年社会の単元「日本とつながりの深い国々」では、 サモアだけでなく、他の国についても調べてみたいと張り切っていた。世界には、知らない文化や風 習がたくさんあることを知り、海外に行って色々なものを見てみたいという意見をもつ児童もいた。



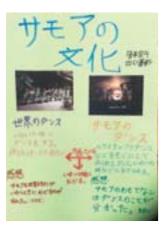


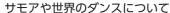
サモアの方金

サモアと日本の違いについて

サモアの服装いろいろ

サモアのお金について詳しく







世界の学校の時間割について

### 《児童の振り返り》

- ・サモアの勉強をしている間、休み時間がないことがずっと気になっていました。そこから世界の学校では、どのような時間割になっているのだろうとさらに疑問を持ち、世界の時間割を調べました。日本では授業時間が45分だけれど、世界では、様々な授業時間があることが分かりました。これからも、1つの疑問から、日本だけでなく、世界はどうなっているんだろうという事にも目を向けていきたいです。
- ・最後、世界とどのように関わっていけばいいのかについて話し合った時に、「皆がお互いを理解して、 世界の皆が笑顔でいられるといい。」という意見でまとまり、そのためには、自分たちが他の文化の 違いを理解したり、それをおかしいと思わずに受け入れることが大切だと考えました。
- ・私は、この勉強を通して、海外に興味を持ちました。様々な場所に行き、外国の人と触れ合う機会を 持ってみたいと思いました。

### 3 使用した教材

<教材1>ワークシート(全単元を通した感想)

<教材 2 > それぞれのグループでまとめたポスター

# 全体を通して

### 1 所感

今回の教師海外研修で、サモア独立国に行き、一番感じたことは、「サモアの人にとって本当に支援は必要なのか。」ということだった。今まで青年海外協力隊の活動は聞いたことしかなかったので、日本の活動は本当に素晴らしく、効果も上げており有意義で、外国の人たちは日本人が教えた技術などを使い続けていると考えていた。青年海外協力隊の活動を実際に見学して、協力隊員の一生懸命さや、そのプロジェクトに携わるサモアの人たちが頑張っている姿を見て、青年海外協力隊は素晴らしいと思った。しかし、サモア人の精神性である、「家族や自然を愛し、自然には逆らおうとしない。」という考えのもと、隊員がいなくなったその後にそのプロジェクトや技術が必ずしも受け継いでいかれないという事を聞き、日本がサモアに支援していること全てが必ずしも現状のサモア人の必要とされていることなのかを考えさせられた。

また、サモアの文化に触れたことが私にとって非常に大きなことだった。日本では、常に時計を見ながら行動し、時計に沿って日常生活が動いていくが、サモアでは、時間の概念が非常に緩く、始業の時間に授業が始まらなかったり、到着時間にバスが来なかったりと私の当たり前が当たり前ではないことに気づかせてもらった。また、サモア人は常に笑顔で、目を合わせ、ジェスチャーも入れながら挨拶をしている。日本人は、恥ずかしがったり小さな声で挨拶したり、目を合わせないことも多い。私は、初めてサモアにいった時は、英語やボディーランゲージを使ってコミュニケーションを取ることが怖くて恥ずかしかったが、色々なサモア人と接し、彼らと挨拶をし続けることで、心を開けるようになっていき、物怖じせずにコミュニケーションを取ることができるようになっていった。恥ずかしがらずに自分から笑顔で進んで挨拶すると、心を開いていくことができるようになることを、日本の児童たちにも伝えていきたい。

現在の教育では、外国語が3、4年生から始まっていき、国際化が進んでいる。その中で、英語を教えるだけではなく、異文化についても教えていくことが非常に大事だと今回の研修で学ぶことができた。私が学んだことを、これから児童たちに還元していきたい。私をきっかけに、JICAの活動に触れた児童たちが、将来1人でも、他国に対して広い視点を持つことができたり、他国と触れ合うような仕事や活動に従事してくれたりすることが、私がこの研修で学んだことが活かされたといえるであろう。

最後に、JICA 北陸の職員の皆様、一緒に参加した先生方、JICA サモア事務所の方々、青年海外協力隊員の方々との貴重な出会いが、私の価値観を大きく変えてくださり、さらに視点を広げることができました。本当に感謝申し上げます。



昼ご飯を買うお金を使いヌードルをくれた小年



青年海外協力隊の萩尾隊員。 授業が素晴らしかったです。



時間に追われる日本と違い、ゆったり 時間を楽しむ少年。

# 2 参考文献・資料

<教材1>エーリッヒ・ショイルマン編 岡崎照男訳

『パパラギ はじめて文明を見た南海の酋長ツイアビの演説集』 2009年 SB文庫 <教材 2 > JICA北陸「2015年度教師海外研修報告書」

# Message from Samoa

実践場所	白山市立鶴来中学校(石川県)				小林 千賀子		
対 象		中学1年生					
実践教科		英語(全)	5 時間)				
ลรเง	○英語	途上国について知り、国際協力について を通して、サモアの子どもたちと国際交 アの開発問題から、自分たちの生活を振	流をする。				
	回	プログラム			備考		
実践内容	1 【What do you know about Samoa?】 ・開発途上国について知る。 ・サモアについて知りたいことを書く。 2 【Let's write a letter to Samoan friends!】 ・サモアの中高生に向けて、英語で手紙を書く。 3 【Samoan Life ~ What is Samoa like?~】 ・サモアの生活や文化について知る。 4 【Letters from Samoa】 ・サモアの中高生からの手紙を読み、分かったことをまとめる。 5 【Let's talk about Samoa and reply to letters!】 ・手紙から分かったことを発表し、返事を書く。				写真、ラバラバ、紙幣手紙		
成果	・サモアの生徒と手紙のやりとりをすることで、英語を通して海外の人たちとの交流を経験することができた。 ・サモアと日本の違いを知ることで、異文化理解にはそれぞれの国の価値観を大切にする必要があると感じることができた。						
課題	・先進 解す	<ul><li>・生徒は手紙の交換を続けることを期待していたが、時間の確保が難しかった。</li><li>・先進国と開発途上国の未来についても考えさせたかったが、手紙からサモアについて理解するだけになってしまったので、今後の授業の中で国際交流・異文化理解について考えさせたい。</li></ul>					
備考		は1年生を対象におこなったが、3年生の 介し、サモアについて知りたいことを書			し100人の村だったら」		



# 授業実践の詳細

# **1**時限目▶▶▶ 「What do you know about Samoa?」

# (a)(5)(1)

- ・開発途上国が抱えている問題について考える。
- ・サモアという国を知り、どのような国なのか興味を持つ。

### 1 児童・生徒の活動の流れ

- ①開発途上国が抱える問題について、数字から考える。
- ②サモアという国を知り、どのような国か予想する。
- ③サモアについて知りたいことを書く。

# 2 児童・生徒の活動の成果・反応

- ◇「もしも、地球に暮らす人が100人だとしたら・・・」 開発途上国がどのような問題を抱えているかはある程度知っているが、具体的に数字から考えると、 実際の数値よよりも低い数値を予想する生徒が多かった。
- ◇「サモアってどんな国?」

国旗から「サモア」という国が分かる生徒は1人だけで、他の生徒は国名を初めて聞いたようだった。

◇「サモアについて知りたいこと」

サモアではどのような生活を送っているかを予想しながら、知りたいことを書く。

~What do you want to know about Samoa?~

- ・主食は何か。伝統的な食べ物は。
- ・おいしい食べ物は何か。
- ・どんなフルーツを食べるか。
- ・本場のココナッツはおいしいか。
- ・どんな家に住んでいるか。
- ・どんな服を着ているか。伝統衣装はあるか。
- ・人気のあるスポーツは。
- ・人気のある音楽は。
- ・有名な場所はどこか。どんな観光地があるか。
- ・どんな行事があるか。
- ・アニメを観ているか。
- ・どんな遊びをするか。
- ・流行っているもの、人気のあるものは何か。
- どんな動物がいるか。
- ・人気のある職業は何か。
- ・何語を話しているか。
- ・日本語を話せる人はいるか。

- ・世界遺産はあるか。
- ・景色がきれいな場所は。
- ・きれいな魚はいるか。一番きれいな魚は。
- ・四季はあるか。どのような気候か。
- ・お金の単位は何か。
- ・消費税は何%か。
- ・一日の生活はどんな感じか。
- ・あいさつの仕方は。
- ・生活の上で楽しいことは何か。
- ・生活の上で大変なことは何か。
- ・学校はあるか。どんな先生がいるか。
- ・どんな教育をしているか。
- 医療機関はあるか。
- ・日本について知っていることは。
- ・サモアから見て、日本はどんな国か。
- ・国が抱えている問題は。
- サモアは平和かどうか。

# 3 使用した教材

<教材1> サモアの国旗、写真、ワークシート



# 2時限目▶▶▶ [Let's write a letter to Samoan friends!]

# (a)(5)(1)

・これまでに学んだ英語の表現を使い、日本についての紹介やサモアについて知りたいことを手紙 に書く。

### 1 児童・生徒の活動の流れ

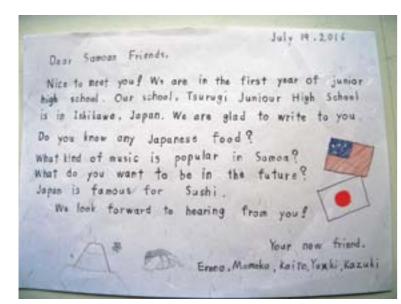
- ①英語での手紙の書き方を学ぶ。
- ②班ごとに手紙の内容を考え、手紙を書く。
- ③手紙を清書する。

### 2 児童・生徒の活動の成果・反応

- ◇何を紹介し、どのような質問をするか、班ごとに真剣に考えていた。
- ◇1年生1学期の学習内容で、自分たちの言いたいことを英語で表現するのは難しいが、辞書で単語の 意味を調べたりしながら一生懸命に手紙を書いていた。
- ◇英語の得意な生徒も苦手な生徒もいるが、内容を考える人・単語を調べる人・英文を考える人・清書 する人というように上手く分担して、全員が参加しながら手紙を完成させることができた。

# 3 使用した教材

<教材2>手紙の書き方のワークシート



生徒が書いた手紙



# 3時限目▶▶▶ 「Samoan Life ~ What is Samoa like? ~ 」

# (a(5)(1)

・サモアがどんな国かを知り、日本との違いについて考える。

### 1 児童・生徒の活動の流れ

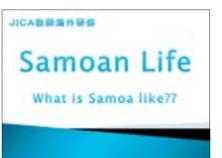
- ①サモアについて知る。
- ②伝統衣装や紙幣など実際に手にとって見ることで、異文化理解を深める。

### 2 児童・生徒の活動の成果・反応

- ◇サモアと日本の学校の違いに驚いていた。学期の違いや時間感覚の違いに驚いていたが、最も驚いていたのは、サモア小学校の水泳の授業で使用しているプールがとても立派だったこと。「開発途上国 = 貧しい」というイメージを持っていたために、施設が整っているということに驚いていた。
- ◇伝統衣装やお金、現地の地図を興味深そうに見ていた。実際にラバラバを巻いた生徒は少し恥ずかしがりながらも、嬉しそうにしていた。
- ◇実際にサモアの生活を知ることで、先進国に住む自分たちと開発途上国に住む子どもたちの生活には どのような違いがあり、生活の中で何を重視しているものにどんな違いがあるかを知ることができた。

### 3 使用した教材

- <教材2>現地の写真、パワーポイント
- <教材3>ラバラバ、現地の地図、硬貨・紙幣



# Let's speak in Samoan!

- <Self-introduction>
- Talofa.
- O lo'u igoa o Chikako Kobayashi.
   Oute sau mai lapani.
- Lance and the same of the same
- (Hello. I'm Chikako Kobayashi.
   I'm from Japan.)

















サモアの様子

# 4時限目▶▶▶ [Letters from Samoa]

# (a)(5)(1)

- ・サモアの高校生からの手紙を読み、内容を理解する。
- ・英語を用いて、海外の人々と交流することができることを実感する。

# 1 児童・生徒の活動の流れ

- ①サモアからの手紙を読み、内容を理解する。
- ②班ごとに分かったことをまとめる。

### 2 児童・生徒の活動の成果・反応

- ◇手紙の返事が届いたことを知ると、とても喜んでいた。 手紙の中には班員の個人名を書いてあったものもあり、自分の名前が書いてもらえた生徒はとても嬉しそうにしていた。
- ◇手紙の内容は、1 年生で理解するのは難しい英文もあったが、単語の意味を調べて内容を推測しながら読むことができた。
- ◇これまでは授業で ALT と話す以外に英語を用いて交流する機会がなかった生徒がほとんどだったで、 自分たちの英語が海外の人たちに理解され、交流することができる喜びを味わわせることができた。

# 3 使用した教材

<教材4>サモアの生徒が書いた手紙



手紙交換に協力してくれた篠﨑隊員



手紙を書いてくれた バイマウガ中高等学校の生徒





手紙交換① サモアの生徒からの手紙

# 5時限目▶▶▶ 「Let's talk about Samoa and reply to letters!」

# (1) (1) (1) (1) (1)

- ・手紙を読んで、サモアについて分かったことをまとめる。
- ・意欲的に英語で手紙の返事を書く。

# 1 児童・生徒の活動の流れ

- ①サモアからの手紙を読んで分かったことをまとめ、班ごとに発表する。
- ②手紙への返事を書く。

### 2 児童・生徒の活動の成果・反応

- ◇日本のことはあまり知られていなかったが、富士山や寿司を知っている人はいた。
- ◇"Are you a boy or a girl?" という質問があったので、名前だけではなく、性別も書いておけばよかった。
- ◇前回の手紙は自己紹介やサモアについての質問が中心だったが、今回は日本についての質問に答えている班が多く、辞書だけでなく教科書や地図も使って日本の世界遺産や伝統文化について調べながら書いていた。英語で日本文化を紹介する良い機会となった。

 $\sim$  What is Samoa like? $\sim$ 

- ・サモアは平和で美しい国である。
- ・サモアの人たちは優しい。
- ・主食はタロイモやヤムイモ。魚をよく食べる。
- ・ブレッドフルーツ、バナナなどが人気。
- ・人気のある音楽はR&Bやレゲエ。
- ・バスケやネットボールをする。
- ・Taumeasina Resort という場所が良い。
  - ~Questions to Japanese students~
- · What is Japan like?
- · What do you like about Japan?
- · What is hard for you at school?
- Do you have any traditional things in Japan?





サモアへの手紙

# 3 使用した教材

<教材5>ワークシート





手紙交換② 手紙を読み、返事を書く様子

# 全体を通して

### 1 所感

今回、教師海外研修に参加した目的は、自分自身の国際理解に対する知識・理解を深めること、そして、英語を学び始めた中学校1年生に実際に英語を用いて海外の人たちと交流をする体験をさせることだった。英語を学んではいるものの、日常生活の中ではALTと対話する以外に英語を使う機会がなく、将来も英語を使うことはないと考えている生徒が多いのが現実。そこで、現地隊員の方に協力していただき、サモアの生徒との手紙交換を行わせてもらった。生徒は、初めて知った国の人に英語で手紙を書くということに対して興味関心と不安が半分ずつというような感じだったが、班員と手紙の内容を考えていく中でサモアに対する興味も高まり、足りない語彙や文法の知識を辞書で補いながら一生懸命に自分たちの思いを伝えようとしていた。そして、サモアの生徒からの返事を非常に心待ちにしていた。授業の進度の関係もあり、返事が生徒のもとに届いたのは少し遅くなってしまったが、返事が届いたことを拍手しながら喜び、班員と顔を近づけながら読む姿はとても微笑ましかった。自分たちの英語が海外の友達に理解してもらえたこと、日本についての質問に英語で答えたこと。授業として英語を学ぶだけでなく、英語を用いることで海外の人たちとつながる体験をさせられたことに関しては成果があった。しかし、開発途上国の抱える問題や先進国に住む自分たちが将来どのような国際協力をしていけるか、という点までは考えを深めることが出来なかったので、今後の授業の中で国際理解教育を進めていきたい。

サモアを訪れて日本とは全く違う生活を体験することで、日本の生活がいかに満たされているかを改めて実感するとともに、日本にはないサモアの良さも感じることが出来た。日々の生活の中で、なかなか海外や別の世界に目を向けることが出来なくなっていたが、自分自身が広い視野を持って世界を広げていかなければ生徒の考え方や視野を広げることは出来ないので、今回の研修を国際理解教育だけでなく様々な活動につなげていきたい。





笑顔輝く、サモアの生徒

# 2 参考文献・資料

- 1) JICA北陸「平成26年度教師海外研修報告書」
- 2) JICA北陸「2015年度教師海外研修報告書」
- 3) 国際連合経済社会局人□部「世界人□推計2013年度版」等
- 4) 池田香代子+マガジンハウス「世界がもし100人の国だったら~子ども編し

# 五感で感じよう! サモアってこんなところ

実践場所	富	山県立ふるさと支援学校(富山県)	実践者	谷内   知香			
対 象	全校児童生徒						
実践教科		自立活動、総合的な学習、道徳(全7時間)					
ลรเง	○サモアでの体験を見聞きし、サモアや世界に興味・関心を持つ ○サモアの文化や子どもたちの生活を知り、日本での生活を見直す ○開発途上国の現実を学び、国際ボランティアについて考える						
実践内容	回	回 プログラム			備考		
	1	【谷内先生の夏休み サモアに行ってきました!】 ・サモアについて知る			高等部集会 (学部自立)		
	2 <b>【サモアに友達をつくろう】</b> ・サモアへのビデオメッセージを英語で撮影する				高2・高3 (英語)		
	3 <b>【サモアから返事がきたよ!】</b> ・サモアからのビデオメッセージを見る				高2・高3 (英語)		
	4.5	4・5 【 <b>サモアってどんなところ?見て聞いて感じて味わおう!</b> 】 ・サモアの文化や子どもたちの様子を知る			小学部・中学部 (総合的な学習)		
	6	【サモアを味わう〜タロイモ料理を作る・ウム料理について知る・タロイモを使った調理実習を行う	高1 JICA国際協力出前講座 (家庭科)				
	7	【 <b>国際ボランティアについて話し合おう</b> ・ボランティアについて意見を交換す	中3 (道徳)				
成果	サモアについての写真や動画、音楽、衣類、食べ物等を実際に見たり、聞いたり、味わったりして、興味深く学習に取り組むことができた。また、これまで遠いと感じていた海外を交流活動を通して身近に感じ、日本と他の国々の関係の重要性に気付くことができた。						
課題	・授業時数の関係で1時間の中で多くを盛り込みすぎて学習の焦点がぼやけてしまった。						
備考	6回目の家庭科では、JICA国際協力出前講座を活用した。						
	1						

# 授業実践の詳細

# ■ 時限目 ▶ ▶ 「谷内先生の夏休み サモアに行ってきました!」(高等部集会)

# (a)(5)(1)

- ・サモアの文化や学校について知る。
- ・世界の国に興味を持つ。

# 1 児童・生徒の活動の流れ

- ①自分が知っている国名を書くゲームをする。
- ②開発途上国について知る。
- ③サモアクイズをする。
- ④日本とサモアの良いところを探してプリントに記入する。

# 2 児童・生徒の活動の成果・反応

- ◇海外に興味や関心のない生徒が多かったが、世界地図やサモアの写真を楽しそうに見ていた。
- ◇サモアの学校生活の様子を写真で見せながら紹介すると、「いいなぁ」「うらやましいな」「大変そうだな」等自分たちと比較しながら興味を示していた。



<サモアの良いところ 日本の良いところ>

サモア	日本
<ul><li>・楽しそう、幸せそう</li><li>・ココナッツが美味しそう</li><li>・兄弟がたくさんいて小さい子のお世話ができる</li><li>・運動神経や視力がいい</li></ul>	<ul><li>・将来の選択肢が広い</li><li>・家族皆でご飯を食べられる</li><li>・小学校に留年制度がない</li><li>・食べ物や娯楽が豊富にある</li></ul>

### 《児童の感想》

- ・僕もいつか海外に行きたいです。ただ行くだけじゃなく、何かしらの目的を持っていきたいです。
- ・私たちは、食事もちゃんととれて、学校にも行けている生活が普通になってきていると思います。私 たちは他の国と助け合う必要があると思います。
- ・サモアは開発途上国といっても私たちが学ぶべきとこが多くあると思いました。これからの世界平和 のために自分に何ができるか考えたい。

# 3 使用した教材

- <教材1>電子黒板(パワーポイント)
- <教材2>地球儀
- <教材3>ワークシート



パワーポイント (サモアクイズ)

# 2時限目▶▶▶「サモアに友達をつくろう」(高2、高3)

# (a)(b)(1)

- ・サモアの文化や生活について思い出し、質問を考えることができる。
- ・自己紹介や質問を英語にし、相手に伝わる大きな声で動画に映ることができる。

### 1 児童・生徒の活動の流れ

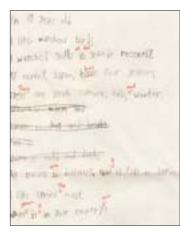
- ①自己紹介やサモアへの質問を考える。
- ②考えた英文を添削してもらう。
- ③ビデオメッセージを撮る。

# 2 児童・生徒の活動の成果・反応

- ◇英作文が苦手な生徒もいたが、分からない単語を辞書で調べたり文法を 教員に確認したりして積極的に取り組んでいた。
- ◇ビデオメッセージを撮るのを恥ずかしいと感じたようだが、ぞれぞれが 精一杯伝えられる方法を考えてビデオ撮影に臨んでいた。



いざ撮影! 緊張~



英語の先生に添削をお願いした原稿



3 使用した教材

<教材2>ビデオカメラ

<教材4>タブレットPC

<教材1>地球儀

<教材3>電子黒板

話すことが苦手な生徒は、タブレットPCと電子黒板を 用意して、相手に伝わる工夫をしていました。

- どんなことを質問しようかな?サモアの生徒は日本の学校のこ
- サモアの生徒は日本の学校のことどれくらい知ってるの?



# 3時限目▶▶▶「サモアから返事がきたよ!」(高1、高2)

# (a)(5)(1)

- ・サモアからのビデオメッセージを見て、サモアの学校への関心を高める。
- ・サモアの生徒と交流を通して、コミュニケーションや英語の大切さに気付く。

### 1 児童・生徒の活動の流れ

- (1)前回の振り返りで、自分たちの作ったビデオレターを見る。
- ②サモアとはどんな国だったかクイズ形式で振り返る。
- ③送られてきたビデオレターを見る。

### 2 児童・生徒の活動の成果・反応

- ◇自分たちのビデオメッセージに返事がきたことを伝えただけでも「おおー!」と歓声があがり、とて も楽しみに返事を待っていたことや、サモアへの関心が高まっていることを実感した。
- ◇動画を再生すると、笑顔で見る様子が見られた。また、学校の様子や教室を見て、自分たちが思って いたよりもきれいな環境に驚いていた。
- ◇英語の教員が、最近習った単語や熟語について説明を行ったが、自分たちよりも英語が上手なことに 驚き、英語でもっとコミュニケーションがとれるようになりたいと言っていた生徒もいた。



サモアからのメッセージを見る生徒たち



日本語でのあいさつに皆喜んでいました

### <感想より>

- ・(「サモアにきてください」とのメッセージを見て) 是非行きたい! でも一人じゃ不安だからクラスの皆や谷内先生と行きたい!
- ・歌がすごい!
- ・私たちより年下なのに英語がすごい上手でうらやましい。
- ・思ったよりも教室がきれい。
- ・みんな楽しそうだな一と思った。
- ・今度はスカイプで直接やりとりしてみたいけど恥ずかしくて話せないかもしれない。

### 3 使用した教材

<教材1> 電子黒板

<教材2> 動画のデータ



英語が上手だな

# 4 • 5 時限目 ▶ ▶ 「サモアってどんなところ?見て聞いて感じて味わおう!」(小学部・中学部)

# (a)(5)(1)

- ・クイズ等を通して楽しく活動に参加し、サモアへの興味関心を高める。
- ・サモアの文化に実際に触れる。

### 1 児童・生徒の活動の流れ

- ①地球儀でサモアを探す。
- ②サモアの写真やビデオを見ながら説明を聞く。
- ③サモアの伝統衣装ラバラバを着る。
- ④タロイモチップスを食べる。
- ⑤サモアに関するクイズに参加する。

# 2 児童・生徒の活動の成果・反応

- ◇サモアという国を初めて知る児童生徒がほとんどで、ピンとこない様子だった。しかし、地図や地球 儀で位置を示し日本の大きさと比べたり、写真でサモアの様子を見たりするとその違いや遠さに驚い ていた。
- ◇サモアの写真や動画を興味を持って見ている児童生徒がほとんどで、自然に「先生これは何?」「暑そうなところやね」との声が聞こえてきた。「クイズ サモアのうそ?ほんとう?」にも楽しく参加できた。
- ◇ラバラバやココナッツの殻でできた器等サモアで使われている実際の物に触れ、とても嬉しそうに着たり、器で楽器のように遊んだりしていた。この器でココナッツを飲んでみたいとの声も聞かれた。写真や動画だけでなく、実際に見たり触れたりすることがより児童生徒の関心を引きつけた。
- ◇タロイモチップスは、食べたがらない児童生徒もいるのではないかと心配していたが、おかわりが欲しいと言う児童生徒もいるほど気に入った様子だった。他にもどんな料理があるのか、サモアにも日本食はあるのかという質問も出、食文化についても知る良い機会となった。



「ラバラバ欲しいな〜」



これでココナッツジュースを 飲んだらサモアっぽいよね!

> サモアって小さいね! 日本からこんなに遠いんだ。

# 3 使用した教材

- <教材1>電子黒板(パワーポイント)
- <教材2>地球儀
- <教材3>ラバラバ
- <教材4>ココナッツの器
- <教材5>タロイモチップス



# 6時限目▶▶▶「サモアを味わう~タロイモ料理を作ろう~」(高1)

# (a)(5)(1)

- ・ウム料理について知り、世界の食文化に興味を持つ。
- ・サモアの食文化について学び、理解を深める。

### 1 児童・生徒の活動の流れ

- ①サモアの文化の振り返りを行う。
- ②ウム料理について知る。
- ③タロイモを使った調理を行う。

### 2 児童・生徒の活動の成果・反応

- ◇ウム料理については、JICA国際協力出前講座を活用しJICA北陸の木水さんから説明を受けた。サモアだけでなく、トンガとの食文化の違いについても知ることができ、近い国でも料理方法等が違うことに驚いていた。
- ◇高等部1年生は食の好き嫌いが多く、新しいことにも消極的な生徒が多い。タロイモ料理を受け入れられるか不安だったが、どの生徒も自分の役割をきちんと理解し、楽しそうに調理をしていた。



ウム料理の説明を聞きました

### <生徒の感想文より>

整定と洞里を楽し人でできて見かったです。
ることか不見議に成じます。
うりた かけん かり 大人 たっている かったい はんしょう かんしょう しょうしゃ しゃ し
ではない、気かしてきました。むしる難れてい
地方によって差があるのででんなにすごい事
した。 こかしから考えてみると日本国田でモ
花中考え方八差があることが正思議に思える
とです。これを聞いた時い花坪八行く時の衣
川の国は近くの島でのに生治に差かあると
で 新 じ 3 き ま 6 だ。
九外国の食材11りでか強イメージがあったの
はイゼはあまりクセがありませんでした。使
ていました。しかし定際に食べてみると、多
を食べたことがなく、味中食成に不安を成び
ことです。候はタロイモヤココナッツごんり
一一一日日一多想以上に料理がありしか、た
記憶に硬、ていることか二つあります、
今回のかモアトらいての授業を受けて特に



写真で見てイメージしたい たのと違いました。タロイ モ料理美味しかったです。

# 3 使用した教材

- <教材1>電子黒板(パワーポイント)
- <教材2>食材(タロイモ、ココナッツミルク、パルサミ缶(サモアの伝統料理))
- <教材3>レシピ

# 7時限目▶▶▶「国際ボランティアについて話し合おう」(中3)

# (a)(b)(1)

- ・国際ボランティアについて自分の考えをまとめて発表する。
- ・他の人の様々な意見を聞いて、自分ができる国際協力について考える。

### 1 児童・生徒の活動の流れ

- ①国際ボランティアについて現状を知る。
- ②ワークシートに従って、国際ボランティアについて自分の考えをまとめ、発表する。
- ③他の人の意見を聞き、ワークシートに最終的な意見を記入して発表する。

### 2 児童・生徒の活動の成果・反応

- ◇最初は国際ボランティアはあって当然であり、自分も困っている人を助けてあげたいという意見がほとんどだった。
- ◇教員の意見を聞いたり、サモアの人が幸せそうに見えること、「ボクのお父 さんは、ボランティアというやつに殺されました」を読んだりしたことで、 ボランティアを受ける側の立場の気持ちを考えることも大切だと気付けた。



### <ワークシートより>

- ・ボランティアに反対。ボランティアを望んでいない、もしくは外国人が嫌いという人もいるかもしれないので、そういう場合はあまりしない方がいいと思う。
- ・ボランティアを受けることで生活が改善されるかもしれないけれど、その人にとっての本当の幸せは何なのか分からないと思いました。相手の国の文化を壊すことにつながることもよくないと思ったので、いくら日本の暮らしは豊かでも、ボランティア先の文化を崩さないようにすることが大切だと思った。

# 3 使用した教材

<教材1>ワークシート

- <教材2>資料「ボクのお父さんは、ボランティアというやつに殺されました」(インターネット記事)
- <教材3>絵本「パパラギーはじめて文明を見た南の島の酋長ツイアビが話したこと」2002年 立風書房/和田誠
- ※「ボクのお父さんは、ボランティアというやつに殺されました」より一部抜粋

ボクはおとうさんと山奥の村で幸せに暮らしていました。

毎日畑で採れたトウモロコシとイモを食べて、川で魚を捕まえ、山で鹿を狩り、一日中一緒に過ごしていました。

しかしある日、村にボランティアというやつが来ました。

そのボランティアはニホンという海の向こうから来ました。

そして、ボランティアはボクたちにこう言いました。

「トウモロコシとイモばかり食べていたら栄養不足になる。これからはヤサイを育てて食べなさい」おとうさんはヤサイを売ったお金でテレビを買いました。

しかし、おとうさんと一緒に山で鹿を狩る時間はなくなりました。

ボクの大好きだったおとうさんはもういません。

# 全体を通して

### 1 所感

今回、この研修に参加できて本当に良かった。研修に行く前と今では自分の中の価値観が大きく変わったことがある。

まず、一つめは、「ボランティアの意義」について。ボランティアとは、困っている人がいればそこに自然発生するものだと思っていた。しかし、今回サモアでの様々な経験、特にホームステイを通してボランティアを受ける立場の方々と生活を共にしたことで、「ボランティアって何だ?」ということを深く考えるようになった。自分ので



ホームステイ先の村で

きること、相手の望むこと、大切な物の価値観の違い、幸せの捉え方。実をいうと、今でもなかなか答えは見いだせずにいる。児童生徒とこれからも考えていきたいことの1つになった。

二つめは、「学校保健の重要性」について。サモアに保健室や養護教諭がいないこと、偏った食生活から肥満の人が9割を超えるということを事前研修で学び、是非自分の身体や健康に興味を持ってもらいたいと強く思い2校で身体測定と保健指導を実践した。サモアの学校環境の想像がつかず英語でうまく伝わるか不安だったが、研修のメンバーとサモアの先生と子どもたちの笑顔に助けられ、楽しく実施できた。開発途上国には学校保健が確立していないところが多いと知り、子どもたちの笑顔や健康を守るために私たちができることは何かと言うことを深く考えさせられた。またサモアで今まで経験したことのない文化や価値観に触れ、他を認めることの難しさと認め合えた時に生まれる絆を知り、養護教諭として日々児童生徒と関わる中で、きちんと彼らの背景に向き合うことの重要性に気付けた良い機会になった。

三つめは、「子どもたちの無限の可能性」について。サモアで出会った子どもたちはみんなきらきらと笑っていたことが大変印象的だった。私たちから見ると十分でない環境にあっても、自分たちの持っている能力で生き抜いていこうとしている力強さを感じた。私の勤務する学校では、児童生徒は全員が病院に入院し治療しながら教育を受けている。サモアのこと、世界のことについて少しでも興味を持ってくれたらと授業計画を立てたが、児童生徒は予想以上に積極的に授業に臨んでくれた。これからも、色々な経験を通し可能性を自ら閉ざすことなく生きていく力を身につけられるよう関わっていきたいと思った。

サモアでの経験は私にとってかけがえのない宝物になった。何度も「児童生徒に見せてあげたい」「このことは是非伝えたい!」と本校の児童生徒の顔を思い浮かべた。この研修を通して得た物を自分の糧として目の前の児童生徒に向き合っていきたい。また、JICA 北陸の皆様、JICA サモア支所の皆様、一緒に研修を受けた仲間たち、サモアで出会った全ての方々、そして快く送り出してくれた職場の先生方に心から感謝申し上げたい。本当に

可 物 A

身体測定楽しんでくれたかな~

ありがとうございました。

# 2 参考文献・資料

- 1) JICA北陸「2015年度教師海外研修報告書」
- 2) JICA地球ひろば「国際理解教育実践資料集 ~世界を知ろう!考えよう!~|



サモアの子どもたちの視力に驚き!羨ましい!

# フィリピンを知る・海外で働く

実践場所	;	石川工業高等専門学校(石川県)	実践者		髙野 典礼			
対 象	環境都市工学科1年生40名							
実践教科	環境都市工学基礎(全13.5時間)							
ねらい	特定の国(フィリピン)についてクラス全員それぞれが調べ、プレゼンテーションをすることで、様々な興味、情報が引き出され、更には実際に見聞した人から話を聞くことで、 臨場感も含めて共有化され、海外で働くことの意識付けを行う。							
	回	プログラム			備考			
実践内容	1 2~3 4~5 6 7~9	【暮らしを守る土木工学】 ・パワーポイントで何ができるのか 【フィリピン調べ】 ・人が知らない、知りたいことを詰める 【海外の仕事調べ】 ・土木技術が世界でどう活躍しているが、海外ブランドの戦略 【教師海外研修、グローバル人材育成コ【学生のプレゼンテーション】 ・フィリピンに関しての質問に応答 【学生のプレゼンテーション】 ・フィリピンの乗り物、食べ物、観光質易、歴史、ゴミ山、ストリートチリイメージ戦略、ブランドを手に入れる	か。 <b>Iースの報告</b> 】 た、教育、イ ルドレン ル、海外ブラ	ンフラ、 ランドの	Microsoft Power Point Internet OneNote			
成果	・フィリピンの観光や産業の表と、ゴミ問題や貧困、紛争など裏を知った。 ・フィリピンで必要とされているものとそこで働く人を知った。 ・海外には様々な仕事があり、そこで働くことを想像した。							
課題	他の科目では、カリキュラムが決まっており、授業実践に落とし込むことができなかった。特に海外研修旅行から戻ってきた学生には、実感が伴う、プレゼンテーションになるはずだったのが残念である。							
備考								

# 授業実践の詳細

# 1 時限目▶▶▶「暮らしを守る土木工学」

# (a)(5)(1)

- ・まずは、学生が学ぶ土木工学が暮らしにどう役に立っているのか、環境保全へどう貢献をしているのかをスライドを使って説明し、また、パワーポイントそのものも併せて知ってもらう。
- ・学生にとっては、1年次で学ぶ専門教科ということもあって、その後の勉学意欲に係わる動機づけとして、重要な位置づけである。
- ・環境都市工学とは、土木工学が生態系などの環境と人の暮らしの安全との折り合いをつけているのかを学ぶ。
- ・そしてその技術は日本だけでなく、世界で通用することを知ってもらう。

# 1 学生の活動の流れ

- ①地球温暖化を知る。
- ②二酸化炭素排出源は何処か。
- ③蒸発量と降雨量が増える。
- ④増水から守るのが堤防。
- ⑤戸大な台風の発生で町が水没する。
- ⑥身近な河川でも氾濫は起きている。
- ⑦将来の二酸化炭素濃度は生活次第。
- ⑧京都議定書で温暖化を防ぐ各国の取り決め。
- ⑨プラスティックからカーボンニュートラル知る。
- ⑩エコ家電がある。
- ①クールビズ・ウォームビズで貢献できる。
- 12 断熱の必要性。
- ③エコドライブ・エコカー・燃費とは何か。
- ⑭山道・トンネルどちらがエコ?
- ⑤谷越え・橋はどちらがエコ?
- 16雲の上の橋もある。
- ①信号・高速道路はどちらがエコ?
- ⑱バーク&ライドの仕組み。
- 19バイオディーゼルで黒い排気ガスがなくなる。
- ②技術者としての工夫

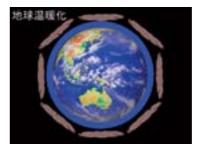
# 2 学生の活動の成果・反応

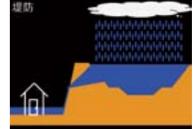
- ◇地球温暖化を知らない学生はいない。
- ◇スライドは絵も描けるし、動こすことも出来るんだ!
- ◇東日本大震災以降、原子力発電所は殆ど稼働していないから火力発電に頼っている。
- ◇暑く成れば蒸発量も増え、降水量も増える。
- ◇堤防が増水から暮らしを守っている。
- ◇半島を覆うほどの巨大なハリケーンがあった。

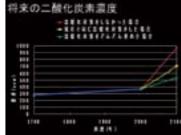
- ◇一つの町が水没することもある。
- ◇台風は番号、ハリケーンは名前が付けられる。
- ◇金沢でも森下川や浅野川が氾濫している。
- ◇将来の二酸化炭素濃度は自分たちの行動次第。
- ◇京都議定書で各国は排出量を抑えようとしていた。今は?
- ◇炭素は循環しているんだ。
- ◇無理をしない暮らし方がある。
- ◇車からの二酸化炭素排出を減らすために自分たちができることもあった。
- ◇トンネルや橋は環境保全に繋がっていた。
- ◇世界には見てみたくなる橋がある。
- ◇如何に交通を円滑にするかが問題だ。
- ◇多人数が乗れるバスは地球に優しいけど、黒い排気ガスが嫌だ。
- ◇休耕田を利用したバイオ燃料作りがある。
- ◇自分たちが学ぶことで地球や暮らしを守ることができる。

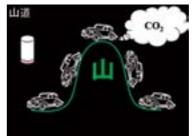
# 3 使用した教材

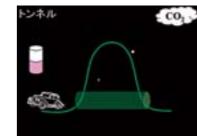
<教材1>パワーポイント、自作スライド(地球温暖化)



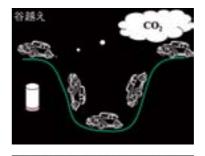


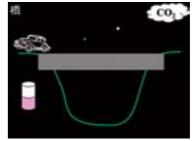




















実践授業報告

# **2~5**時限目▶▶▶「フィリピン調べ・海外の仕事調べ」

# (a(5)(1)

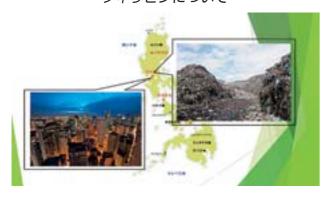
- ・教師海外研修、グローバル人材育成コース(フィリピン)に行って来たことを伝え、フィリピン とはどんな所なのか、先入観のない状態で、自由に調べてもらう。
- ・主に目に入る情報は観光などの表の顔になると目論んでいた。
- ・一方で、海外ではどのような仕事があるのか、どのような仕事が求められているのかを知る。土 木工学ができることは既に知っており、その観点から海外で働くことを想像してもらった筈だっ たが。

# 1 学生の活動の流れ

- ①「フィリピン」をインターネットで検索する。
- ②気になるサイトは OneNote で採取して、後でまとめる。
- ③画像などで気になるものを詰めていく。
- ④人とは違う視点で調べることを勧める。
- ⑤スライドの作成注意。
- ⑥人が知りたくなるように興味を惹くように構成する。
- ⑦文章の抜粋はスライドとして見難い。
- ⑧画像は大きく表示させる。
- ⑨アニメーションは間が大事。
- ⑩音声ファイルの再生も効果的。
- ⑪海外で働くというのどういうことでしょうか。
- ⑫土木ではない仕事も、まあ、いいでしょう。
- (3)自分が就くかもしれないことを想定してください。
- ⑭実際の現場紹介は良いですね。
- ⑤海外でも環境配慮はしていますか?
- ⑯未来都市? 夢のある仕事は大いに結構です。
- (7)高級ブティック? 仕事として捉えていますか?
- (18)スポーツブランドのイメージ戦略。参考にはなりますね。
- ⑲スーパーカー? 手に入れるためにはどのような将来設計が必要ですか?
- ②アニメーターになりたい! どうやって?

# | 2 | 学生の活動の成果・反応

フィリピンについて



### 海外で働く



### フィリピンについて

### 学校

- ・フィリピンでは6月が始果で3月が終果となる。 4~5月が日本で言う更休みになる。
- エレメンタリースクール (小学校)が6年制 ハイスケール(日本の感覚で言うと旧制中学校)が4年制
- ハイスクール卒業後は、カレッジ(大学)となる。
- 基本は4年制となり、6-4-4制。
- 機務教育は小学校6年まで。





### 将来、できること

・インフラ整備を通じて、発展途上国に貢献できる。

海外で働く

- 発展途上国で、大規模な建設に携われる
- ・平均年収、918万で安定した生活を





### 観光地2

一きの の ビーチーボラカイ島 砂の細かさは小使粉ぐらいにきの細かい 世界一貫しいと言われているビーチ。



小さな石ころひとつない奇跡のビーチ。 ~1D/EF-「マヨン山」とは地元の言葉で「美しい(女性)」 と意味し、シャープな山の料面は女性らしき



定市運地林の保全



### フィリピンの歴史について

~スペイン器~ 1521年 実験の政治にきたマゼラッらと戦争助発 \*フペルビン勝利 1542年 スペインらの戦隊襲撃で戦争勃発

1565年ミゲルがセプ島の制圧に成功

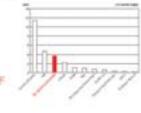
1570年 ミゲルの刊がマニラの制圧に成功 1571年 フィリピンはスペイン様であることを宣言

の食物と変われている。

スペインの副王領である。キシコ世内の統治下に入ることになる。

### スポンサー契約の成果②

· UNIQLO 業界でのポジション3位 ひと昔前までの"ダサい"という イメージを見事に関し、 海外にも展開する存名ブラン Etzote



### バナナの危機

### 3) 高地栽培を行うためのインフラ整備コスト

ローランドでバナナが生産できなくなったことにより、高地でバナナ を作らざるを得ない状況となった。

しかし、遺跡や水道などインフラが未整備かつ、輸送コストが以前と



### 国土交通省で働く人

海外動物・哲学をしている範責的は148名(2012年4月現在)

**高村 康博5ん 人名平成元年** 

- ・京都大学工学部土木工学科入学 人名英年目アメリカのベンシルバニア大学大学程
- 国土交通省社会於州州区開建設推進室 **開催的場合の表現を出かける。**



# 6 ~ 9時限目▶▶▶「JICAからの授業見学・学生プレゼンテーション・相互評価」

# (a)(5)(1)

- ・教師海外研修、グローバル人材育成コース(フィリピン)の報告をまずは行った。私一人の体験 談ではなく、実際に暮らしていた JICA の方からも話を聞く機会となり、より臨場感のある情報 を得られる機会となったはずである。
- ・プレゼンテーションの機会は、人前で話した達成感、関心を集められる話術、そして準備の重要性を学ぶことができる。相互採点をすることで、良い発表とは何かを具体的に見つめることができる。

### 1 学生の活動の流れ

- ①JICA北陸よりいらした3人を紹介される。
- ②教師海外研修、グローバル人材育成コース(フィリピン)の報告を聞く。
- ③技術・技能教育制度について。
- ④貧凩格差。
- ⑤国立大学ITコース卒業生が通う技術訓練校。
- ⑥ファストフード。
- ⑦船舶会社直轄の商船大学
- ⑧日系企業での雇用を後押しする日本語訓練。
- 9日系企業工業団地。
- ⑩学生プレゼンテーション
- ⑪お菓子・移動手段・ゴミ山の紹介
- ①アニメーターになるには。
- ③ランボルギーニに乗れるようになるには。
- (4)ゴミ山解決のために

# 2 学生の活動の成果・反応



「フィリピンの北にある国は何ですか?」 「中国ですか。」 「半分正解かな。まず台湾があります。」



「技術職業訓練高校の生徒さんです。生徒数に対して、 設備が足りないため、生徒は交代制で学んでいます。」



「とってもきれいなお菓子です!」 「僕は甘いものが苦手で、食べなかったのですが、ハロハロは美味しかったですか?」



「私はランボルギーニが好きで調べました。乗るためには、稼ぐしかない! 一流企業北陸電力の給料を調べました。」



「ゴミ山ができる理由として、ごみの多さと処理場の少なさにあります。」



「清水建設が考える、海底都市オーシャンスパイラルを 紹介します。」



「工業系から芸術系の道へ転換するには? 芸術大学への 進学!」



「JICAは何をしているのですか?」 「是非、報告会を聞きに来てください。」

# 全体を通して

### 1 所感

教師海外研修、技術系グローバル人材育成コースに参加させてもらい、お世話をいただいた、JICA 北陸の皆様、また、学校にも援助を頂いたこと、誠に感謝申し上げます。

制度があることは、何年も前に聞いておりましたが、時間も取れず、行く機会はないだろうと流していた情報でした。本校からも、一昨年、二人の教員が行かれていたことを知ったのも、自分が行く算段が付いてからでした。急な要請を学校から聞いたのは、実験中の何気ない会話からでした。既にある予定のため、お断りするつもりでしたが、融通を利かせていただき、何とか遅ればせながら参加することができました。その節は、朝早くにお迎えいただいたもの、初めての国はやはり勝手がわからないもので、入国審査や出口の混乱でお待たせいたしました。降りて直ぐの感想は、東南アジアの雰囲気としか感じ取れず、朝早くの移動ということもあり、まだ清々しさを感じていました。

ホテルでの仮眠後、移動の時に状況は一変しており、ここフィリピンは今まで訪れた国とは違うことをまざまざと見せつけられました。交通渋滞の激しさです。タイミングよく割り込まないといつまでも進めない、その道路事情は、鉄道網の必要性を非常に感じさせるものでした。至る所で道路工事が行われ、掘り返された下には、下水道とも覚束ない排水路があり、その不衛生さを感じさせられました。人が集まり過ぎているのだと、インフラが追い付いていない状態とは斯くも混沌としているものなのかと。

学校までもが足りずに、二交代制で通うとか、教材の共用化は当然として、それを受けざるを得ない状況にも係わらず、通う生徒の勤勉さがとても印象に残っています。NPO アイキャンで保護された幼い子どもたちの屈託のなさを見て、その後の学校訪問でもその愛想の良さや明るさが挨拶から感じ取れました。それは職業訓練をする厳しい学校でも同様で、礼儀正しくも愛嬌がありました。来訪者への挨拶というのは、訪れる人への学校の好印象を残すものだと、普段、石川高専を来訪される企業等の方から、学生の挨拶が良いですねと、お褒め頂くのですが、逆の立場でそれを受けると、本当に良い気持ちになるものだと実感できました。

只、真摯に授業に取り組む姿はなかなか真似ができるものではないとも感じました。やはり、技術者など技能を持った人材を世界に送り出している教育ということで、能動的な姿を見させてもらったのだとも思います。高専も同様な技術者を輩出している機関として、世界に目を向けた教育を求められています。

本校でも、4年次に海外研修制度を設け、全学科が海外を体験しています。以前は、年によって学科持ち回りということもあり、行かなくて済むのならそれでいい、国内が良いという学生が少なからずおりました。ですが、全員が行くとなると、そのような不満ではなく、どこに連れて行って貰えるのかが、学生にとっての興味となりました。行くのなら楽しみたい。そうではなく、海外で何が求められているのかを知って欲しいのです。正に、今回の技術系グローバル人材育成コースで見て回った所が、本当に学生に見て欲しい場所でした。ですが、あの渋滞では、40人という規模の移動はなかなか予定が立てられないという所が課題でしょうか。

この機会が学生教育への提言を頂いたものとし、それを体現できるような教員としても、世界への視野を持ち続けられるよう、頑張っていく所存です。

# 今日のフィリピン14:20

実践場所	福井工業高等専門学校(福井県) 実践者 佐々 和洋				和洋	
対 象	高専4年生					
実践教科	情報化学の最後10分間(全15回 計2.5時間)					
ねらい	進路・進学を考える時期にある高専 4 年生に、フィリピンで体験したことの紹介や諸問題への対処を思案させ、途上国への関心・興味を促す					
	回	プログラム				備考
実践内容	毎週行われる授業の中でわずかな時間ではあるが、フィリピンを中心とした開発途上国とその問題について紹介し、思考させる。 数を行うことにより、意識への定着を図る。  以下のテーマを実施 「フィリピンという国について」 「フィリピンの抱える問題 -ストリートチルドレン-」 「教育現場の実情 -格差社会-」 「フィリピンの学生は私より勉強している!?」 「フィリピンで活躍する日本人 -海外で働くとは-」					
成果	学生が途上国へ興味を抱き、青年海外協力隊などに入隊するなどして現地へ飛び出して行く学生が生まれるのが最大の成果である。そこまででなくとも、国内でできる支援などに 積極的に参加するように意識を変えたい。					
課題	短い時間の中で、いかに興味を引くような実践展開を行うか					
備考						

### 授業実践の詳細

# 1時限目▶▶▶「フィリピンという国について」

# (a)(5)(1)

・研修先として訪れたフィリピンの人口や情勢などの基礎知識を紹介し、途上国の現状について理解を促す。

### 1 学生の活動の流れ

①授業形式による、フィリピンの基礎知識を学習する

②途上国についての理解を深める

③日本および自分の生活との差を考える

# 2 学生の活動の成果・反応

学生からの意見

◇日本とは異なる人□推移への驚き

◇途上国が内在的に所持している発展性

# 3 使用した教材

<教材1>パワーポイント

### 研修先:フィリビンについて

\*

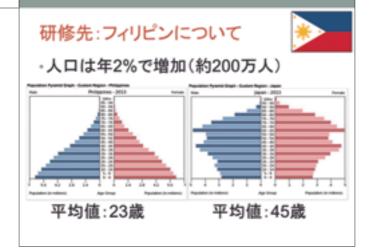
-フィリピンの基礎知識

面積:30万km<sup>2</sup> 人口:1億人

公用語:フィリピノ語

英語





# 2時限目▶▶▶「フィリピンの抱える問題 -ストリートチルドレン-」

# (a)(b)(1)

・途上国に内在する大きな問題の一つである「ストリートチルドレン」に関して知見を増やし、自らが活躍できる場を考えさせる。

### 1 学生の活動の流れ

- ①授業形式による、ストリートチルドレンに関する学習する
- ②教員からの実体験談の紹介を受ける
- ③ストリートチルドレンに対し、現在行えること、将来行えることを考察する

### 2 学生の活動の成果・反応

学生からの意見

- ◇現在できること、募金活動
- ◇将来できること、海外に出て支援
- ◇国による社会保障制度の違いの大きさに驚いた

# 3 使用した教材

<教材1>パワーポイント

### フィリビンの抱える問題



・ストリートチルドレン



### ストリートチルドレン



・実際に行きました(Blumentritt)

排ガス 臭い ゴミ



**−72 −** 

# 3時限目▶▶▶「教育現場の実情 - 格差社会-」

- (a)(5)(1)
- ・フィリピンの教育現場の状況から、フィリピン社会の中にある格差の一端を知る。

### 1 学生の活動の流れ

- ①フィリピンの公立学校の状況を知る
- ②フィリピンの私立高校の状況を知る
- ③公立と私立の違いから、格差について考察する

# 2 学生の活動の成果・反応

学生からの意見

- ◇昔の日本の公立学校も同じような状況だったのか
- ◇実際に教育効果は出ているのか
- ◇格差を個人で解消できるものなのか

# 3 使用した教材

<教材 1 >パワーポイント



# 公立と私立の格差



機材が林立する私立(日系融資)



# 4時限目▶▶▶「フィリピンの学生は私より勉強している!?」

# (a)(5)(1)

・将来を見据え貪欲に教育を受けているフィリピンの学生たちと、自分たちの状況を比較し、自分 を見つめなおしてもらう。

### 1 学生の活動の流れ

- ①フィリピンの学生たちの必死さを知る
- ②今の自分を再確認し、今後の意識を変える

### 2 学生の活動の成果・反応

学生からの意見

- ◇意識の高さに驚いた
- ◇フィリピンの娯楽は何があるのか
- ◇テスト前しか勉強していない自分を見るのが嫌

# 3 使用した教材

<教材 1 >パワーポイント

### 必死に勉強してますか?



- 海の上で
- 規律は絶対! - 背筋は
- 常に伸ばして この状態⇒ 特別ではなく 日常です

# 商船大学では

### 必死に勉強してますか?



### 技術学校(日系支援)では

- 青いシャツが 技術教育に 進んだ証
- 将来の研修先 日本に行くため 皆 必死です



# 5時限目▶▶▶「フィリピンで活躍する日本人 -海外で働くとは-」

# (a)(5)(1)

・フィリピンに進出している日系企業で働く日本人および現地スタッフについて知見を持たせる。 将来の展望を考察させ、海外への意識を芽吹かせる。

### 1 学生の活動の流れ

- ①フィリピンに進出している日系企業 (一部) について知る
- ②フィリピンで働く日本人について知る
- ③自分が海外でどのように活躍するか考察する

### 2 学生の活動の成果・反応

学生からの意見

- ◇英語の大切さを再認識した
- ◇今の内にコミュニケーション能力向上を図りたい
- ◇給料は?

# 3 使用した教材

<教材1>パワーポイント





# 全体を通して

### 1 所感

7月31日から8月6日の日程でフィリピンにて行われた教師海外研修では、ストリートチルドレン、公立高校における教育資源不足、逆に私立校や企業などから出資を受ける学校での高度な教育など、フィリピンにおける大きな問題の一つである格差問題を目の当たりにした。特に、実際にストリートチルドレンの子どもたちと会い、言葉は通じない中でも触れ合ったこともあり「この子どもたちに自分は何ができるのだろうか、何かできないだろうか。」と言う思いに強く駆られた。

そこで本実践授業では、途上国における種々の問題に対しフィリピンを例に学生たちに紹介し、一人でも多くの学生が途上国への興味を持ち、行動に移してくれることを期待し実行するものであった。授業はフィリピンで撮影してきた写真などを利用し体験談を交えて、少しでも学生たちの意識が高まることを目指している。実施時間は1回あたり10~15分程度であり、私が担当する授業の中で終了前の時間を利用してきた。毎週(半期で約15回)行うことの目的は、数を重ねることで少しずつであっても学生たちの中に海外への意識が芽生え、その意識が繰り返すことによってより定着することを望むものである。そして、将来、授業を受けた学生やその周囲の中から海外へ進出する人材が出て、大いに活躍してくれることを願い、来年度以降においても継続していきたい。



# 職場における外国人との多文化共生を考える

実践場所	愛	知県立半田工業高等学校(愛知県)	実践者	山口貴士		
対 象		電気科 課題研究生徒 19名				
実践教科		電気科 課題研究(全6時間程度)				
ねらい	○技術者として海外で活躍するために、工業高校で何を学ぶべきか生徒自身に考えさせる。 ○工業高校生が就職後に滞りない海外出張、海外転勤、外国人労働者との良好な関係を築 くための礎を構築させる。 ○工業高校卒業生として国際的に活躍し得る人材を育成する。					
	回	プログラム	備考			
	2	【教師海外研修報告(フィリピン共和国 パワーポイントによるプレゼンテーショ 授業実践スケジュールと目的説明 【工業高校として技術で支援する方法を				
実践内容	<ul> <li>〜貧困をなくすために〜</li> <li>路上の子どもたちとの Skype 交流プログラム Talk for 1</li> <li>Step、講師: 久野美奈子様 (NPOアイキャン)</li> <li>【職場で外国人と良好な関係を築くために】</li> <li>〜多文化理解、グローバルな視点を持つ〜</li> <li>監修:川島修洋様 (AGC 旭硝子 海外勤務経験者)</li> <li>永島拓也様 ((一社) 日本ワーキングホリデー協会)</li> </ul>					
成果	授業実践前は外国人と接することに対して自分と関わりのないことだと、数名の生徒は 考えていたようだ。授業内で外国人との関わりを持つ可能性を感じてもらい多文化共生を 考えるきっかけとして生徒に何かを感じてもらえたと思う。					
課題	将来、生徒自身が「海外、外国人と関わる可能性がある」と授業を行う中で感じた生徒 も数名いたが、全員に感じてもらうことができなかった。日本は海外との関わりを持つこ とが海外にとっても日本にとっても良い事であると伝えていきたい。					
備考	工業高校生の多くは卒業後に社会人となり製造業などの工場で働く。そのため近い将来、日本において外国人労働者と共に働く可能性がある。また海外勤務、出張なども考えられる。その中で生徒が高校在学中に多文化理解やグローバルな視点を持つことは、滞りなく企業で働くために必要なこととなっている。ワークショップ【職場で外国人と良好な関係を築くために】という題材の構成時に企業の意見も伺った。					



### 授業実践の詳細

●時限目 ▶ ▶ 「職場で外国人と良好な関係を築くために」~海外を恐れない外国人と一緒に活躍できる人材になるために~

# (a(5)(1)

・教師海外研修、グローバル人材育成コース(フィリピン)の報告を行うことを、きっかけに世界 の国々とつながっていることに気付いてもらい、将来の外国人との関わりについて考えてもら う。

### 1 学生の活動の流れ

- ①生徒の暮らす町での外国人との関わりを知る。
- ②日本の人口、フィリピンの人口構成の特徴を知る。
- ③海外と日本が、どのように関わるとよいか考させる。そして発表させる。
- ④職場で外国人と良好な関係を築くために、どのようにしたらよいかを考え発表する。
- ⑤日本が海外人材に頼らなかったら、どのようになるかを考えさせ意見を持たせる。

# 2 学生の活動の成果・反応

- ◇授業実践前は、海外、外国人との関わりについて、自分には関わりのないことだと考えている生徒が 多くいるようだった。
- ◇テレビなどのマスメディアから、海外に対する何らかのイメージを持っているようであった。
- ◇はじめに、本校の就職状況、卒業生の就職先での海外との関わりを伝えた。
- ①知多地域では製造業を中心に半田工業卒業生のニーズが高い
- ②半田工業高校は約6倍の有効求人倍率
- ③6社中1社で雇用、残り5社は半田工業高校卒業 生を雇用できていない。
- ④知多は大企業、中小企業における海外進出企業が 多い
- ⑤半田工業高校卒業生は現場で中核を担い、海外勤 務に企業が期待
- ⑥ A 社「T工場」約1,000名に対し半田工業高校卒 業生が約100名
- ◇生徒は海外、外国人が自分に関係あると感じ始めた ようだ。
- ◇半田工業高校卒業生が海外、外国人と関わるケース を具体的に紹介した。
- ①就職先で外国人労働者がいる。
- ②1年目の研修で海外研修へ行く。
- ③外国人労働者の方が日本人労働者よりも多い。
- ④海外拠点、工場への勤務、出張がある。
- ⑤昨年度の英訳卒業証明書の発行が約20件

# はじめに

- 知多地域では製造業を中心に早田工業生のニーズが高い
- ・ 半田工業は約6億の有効求人信率 6社中1社に雇用、残り5社は半工生を雇用できていない ・ 知多は大企業、中小企業における海外進出企業が多い ・ 半工生は現場で中核を担い海外動務に企業が開修 ・ A社「丁工場」約1,000名に対し半工生、約100名
- 半田工業高校生のための 海外との関わりを伝える必要性

パワーポイント資料(1)

### 半田工業高校卒業生が 海外、外国人と関わるケース

- ・就職先で外国人労働者がいる・1年目の研修で海外研修へ・外国人労働者の方が日本人労働者よりも多い
- 海外拠点、工場への動務、出張 野年度の「英文」の卒業証明書発行が約20件

海外、外国人と関わる可能性を フィリピンを例に解説

パワーポイント資料②

- ◇海外、外国人と関わる可能性についてフィリピンを題材に紹介。
- ◇遠い将来ではなく、近い将来、職場で外国人と関わる可能性があると考えたり、海外赴任があると考 えたりした生徒もいたようだ。
- ◇まず、はじめに東南アジアであるフィリピンについて1分程度イメージさせた。その後、マニラ首都 圏 (Makati) のある場所の写真を見せた。







アヤラ トライアングル ガーデンンズ前 交差点

- ◇多くの生徒は、もともと持っていたフィリピンのイメージとは違っていたようだ。また、どのような 点が東南アジアのイメージと異なっていたかを考えさせ回答を得た。
- ①綺麗、②バイクが少ない、③空が広い、④電線、電柱がない、⑤アメリカ合衆国やイギリスのよう だ等の回答があった。
- ◇現地 High School (中高一貫) での教室の様子、1台の机を2名の生徒が利用している状態、急激 な人□増加により教育施設が充分ではないことを写真および動画により目で見て感じてもらった。 フィリピンの若年層人口について示すことにより日本の人口年齢構成についても考えさせた。

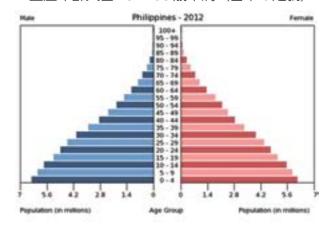




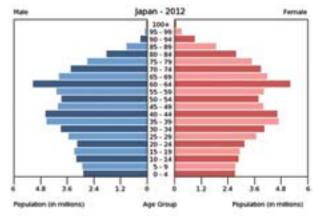
San Pedro Relocation Center National High School製図の授業の様子

◇ High School での若年層人□増加の様子を視覚的に感じさせ、フィリピン人□の年齢構成図を見せ ることで数値的データからもフィリピン人口を伝えた。そして日本人口の年齢構成図との形状の違い を見てから、自分の考えを持たせ口頭で発表してもらった。生徒からは日本が不足している生産年齢 人口をフィリピンの方に協力してもらうことは有効であると感じたようだった。

※生産年齢人□15~65歳未満(日本の定義)



フィリピン人口の年齢構成図



日本人口の年齢構成図

- ◇フィリピンの経済状況、働き方など特徴を伝えた。
- ①海外出稼ぎ労働者が多い。
- ②GDP約10%が出稼ぎフィリピン人による海外からの送金
- ③年収は日本の1/10程度 約400万円→約40万円
- ④物価 日本の約1/3 (ビッグマック指数)
- ⑤英語が堪能
- ◇日系企業は人材不足を解消するためフィリピンに着目 ◇雇用不足を補うため「日本へ行く人材」を育成している専門学

フィリピンにおけるコンビニエンスストア

校の様子を写真により視覚的に伝え、動画により視覚、聴覚からも感じてもらった。同世代のフィリ ピン人が日本で働きたいと強く思い、一生懸命に学ぶ様子に、生徒は何かを感じたようだった。また 卒業後、就職先で外国人と一緒に働く可能性があると考えた生徒もいたようだ。





Phil Nippon Technical College (PNTC) での実習授業の様子

◇フィリピンの豊富な生産年齢人口をねらい、フィリピンへ進出している日系企業を紹介した。日本での人材不足はフィリピン人が日本へ来ることばかりでなく、日系企業がフィリピンで工場拠点を作ることでも補っていることを伝えた。日本と海外との関わりは日本で見られることばかりでなく、海外でも進んでいることを生徒は知った。





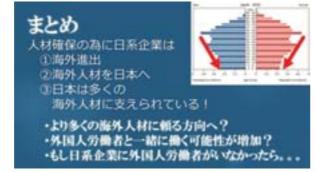
セイコーエプソン(株)

(株)バンダイナムコ

- ◇生徒に対する本時限のまとめとして
  - 人材確保の為に日系企業は
  - ①海外進出
  - ②海外人材を日本へ
  - ③日本は多くの海外人材に支えられている

### これらを伝え

- ①より多くの海外人材に頼る方向へ?
- ②外国人労働者と一緒に働く可能性が増加?
- ③もし日系企業に外国人労働者がいなかったら



パワーポイント資料③

以上の3項目に関して生徒に対し問いかけ考えさせた。これらにより生徒自身が海外、外国人と関わる可能性が高いと感じたようだった。

### [生徒の感想]

フィリピンの平均年齢が 23 歳で日本は 46 歳と知り、こんなに差があるんだと思いました。フィリピンの人は日本で働きたいという強い思いを感じました。日本人は甘えているんだと実感しました。就職したら外国人との交流も多くなると思うでの、しっかり外国人の気持ちも考えて働きたいと思いました。出張などで外国に行く機会があったら、しっかり外国人の方と、ふれあい、がんばりたいと思いました。英語も少し勉強して、色々な話しをしたいと思いました。入社したら外国人に負けないように、がんばりたいと思いました。

### 3 使用した教材

<教材1>パワーポイント

# 2 時限目▶▶▶「工業高校として技術で支援する方法を考えるきっかけ〜貧困をなくすために〜」

# (a(5)(1)

・実際に外国人(フィリピン)とスカイプ交流することで、フィリピンの貧困の状況を知り、海外は、生徒たちにとって無関係ではないことを実感してもらう。

### 1 学生の活動の流れ

- ①フィリピンの貧困、路上で生活する子どもたちの現状について伝える。
- ②スカイプ交流前に5名のグループに分かれ、路上の子どもたちに質問する項目を考える。それにより 生徒自身に路上の子どもたちの現状に対して考えさせ、その考えを言葉で表現させる。 その後、活字として記入させる。
- ③今後、工業高校卒業生として社会人となる中で貧困に対して自分から何ができるかを考えるきっかけを与える。

### 2 学生の活動の成果・反応

- ◇フィリピンの貧困の状況、路上で生活する子どもた ちの現状を聞いて驚いた生徒もいたようだ。
- ◇スカイプ交流後に生徒が自発的に、この時間につい てワークショップレポートを作成した。
- ◇反応は良く積極的に参加していた生徒レポートでも 良い回答が多く見られた



スカイプ交流の様子

### [生徒の感想]

フィリピンは国民の大半がキリスト教なので、日本でクリスマスパーティーをあまりやらないと聞きすごくビックリしていました。また私たちからの「宝くじが当たったら?」と言う質問に対して「難民の方々に支援したい」という回答だったので物欲だらけの自分に少し嫌気がさしたのを覚えています。この交流を通してフィリピン以外の諸外国にも少し興味を持ち、通話を通してだけでなく実際に会って話してみたいと思うようになりました。また自分の事だけを考えるのでは無く、視野を広げ

もっと困っている人は居ないか?助けを必要としている人は居ないか?その あたりを気にしつつ、生活をしていか なければいけないと強く感じました。

# 3 使用した教材

<教材1>スカイプ



生徒作成フィリピン、ワークショップレポート

# 3時限目▶▶▶「職場で外国人と良好な関係を築くために」~多文化理解、グローバルな視点を持つ~

# (a)(b)(1)

・工業高校生として海外、外国人との関係について考える。また海外と日本の違いや同じ部分、共生の大切さは日本も海外でも根本的に同じであること感じてもらい自分の考えを持たせる。

### 1 学生の活動の流れ

- ①プレゼンテーション「海外生活経験について」 永島拓也様(一般社団法人 日本ワーキングホリデー協会)
- ②ワークショップ (1)

「外国人と友達になるために必要なこと」

- ③ワークショップ (2) 「職場で外国人と良好な関係を築く」
- ④プレゼンテーション 「海外勤務について」川島修洋様(AGC旭硝子)



- ◇企業、団体の方の話しを聞いて、工業高校を卒業すると 将来、海外、外国人と関わる可能性があると感じたよう だ。そして多文化共生を自分のこととして認識した生徒 がいた。
- ◇ワークショップでは考えを広げる大切さに気付いた生徒 がいた。
- ◇外国人と関わる時に大切なことは「違いを考えて」「話し」「聞く」そして「感じとる」ことが大切だと感じた生徒もいた。



AGC旭硝子の方のプレゼン

ワークショップの様子①

### [生徒の感想]

ワークショップを行って、一人一人意見や考え方が違っていて意見を出し合ってみると面白かった。みんなで意見を出してみると、同じ意見もいくつかあり、「話しをする」や「助け合う」など大切だと思うことは同じだった。異なった意見でも大切なことは「なるほど」と思うことがあった。今回は「外国人と友達になるために必要なこと」と「職場で外国人と良好な関係を築く」というテーマで「外国人」が共通のテーマだった。日本人と外国人は言葉の壁や宗教の違いもあるので、お互いの事を知り、理解し合う事が大切だと思った。AGC 旭硝子、ワーキングホリデー協会の方の話しを聞いて日本人



ワークショップの様子②

は外国に対してマイナスのイメージが多いけど、そうでもない事がわかった。「外国に行って色々な事を学べた」「日本を基準にしない」「自分の意見を、しっかりと言う」「広い視野で、周りを見る」など外国に行くのは不安があるが行けば自分に良い変化があることがわかった。(一部修正し記載)

# 全体を通して

### 1 所感

工業高校における教育活動を行っている中で、国際理解教育、グローバル人材育成教育について関心と必要性を感じていた。授業の中で機会を見つけては、海外事情や開発途上国との技術格差などについて話しをしていた。その情報のもとになっているのは、メディア、テレビやインターネットからの情報がほとんどであり他者からの情報をもとにしたものであった。今回、教師海外研修、技術系グローバル人材育成コースに参加し研修国に訪問することにより、自分で知見したものを確実に自信を持って生徒に伝えることができるようになると思った。

視察を通じて感じたことは、メディアから感じ取るフィリピンのイメージと、実際に視察し認識したイメージに大きな違いがあった。視察を通じて参考になったことは、メディアからの情報だけでなく自分自身が教師として実際に海外を訪問して自分の目で見て感じることが国際理解教育、グローバル人材教育を行う上で重要であると感じた。

本研修の授業実践では AGC 旭硝子、一般社団法人 日本ワーキングホリデー協会、NPO アイキャンの方などの協力をいただき実施できた。御協力いただいた方に、それぞれの観点でプレゼンテーションやスカイプを利用し海外について紹介をもらった。その後、生徒の学びを深くするため、ワークショップ(アクティブラーニング)を行った。 この授業実践では①国際理解教育、②グローバル教育、③ワークショップ、④地域連携、⑤産学連携、⑥キャリア教育、6つの項目が同時に実施できた。またスカイプ交流については中日新聞社からの取材があり新聞に掲載され家庭でも話しをする機会になったと思う。この授業実践を通じて生徒に対して何らかの刺激を与えられたと感じている。彼らの今後の生活の中で、海外や外国人との関わりを以前より気にし生活すると思う。そして生徒の将来の中で、もし外国人と関わる機会があれば多文化共生し良好な関係を築いてもらいたい。

最後に2016年度の教師海外研修(技術系グローバル人材育成コース)に参加できたことを大変嬉しく思います。JICA北陸、JICA中部の方々、応援してくださった教員、職員の方々に感謝申し上げます。 今後も本研修、授業実践を生かし教育活動を行っていきたいと思います。



スカイプ交流に関する新聞記事

### 2 参考文献・資料

- 1) Google Street View
- 2) 中日新聞

# JICA開発教育





# 学校で活用いただけるJICAプログラムのご紹介

JICAでは、海外の国際協力の現場における経験をリソースに、地域の橋渡し役として、 開発途上 国や国際協力について「知り」、自分に何ができるかを「考える」機会を提供し、国際協力に参加するなどの「行動」につながるよう、様々なプログラムを実施しています。

### ▶▶▶ JICA国際協力出前講座

開発途上国の実情を知り、日本との関係や国際協力がなぜ必要なのかを考える授業や研修などの機会に、JICA職員や青年海外協力隊をはじめとするボランティア経験者、来日中の研修員などを講師として派遣するプログラムです。

教育現場では、国際理解を目的とした総合的な 学習の時間はもちろん、社会や道徳の学習、職業 理解の講座などでも活用されています。



### ▶▶▶ 教師海外研修

教師海外研修は、教員を対象にした実体験型研修プログラムです。開発途上国がおかれている現状、日本との関係、国際協力の実情などを約10日間の海外研修を通して直に学び、その学びと体験を帰国後、授業実践を通して児童・生徒に伝えることで、日本社会に還元する事業です。

校種、勤務地域、科目などが違う先生方が一つのチームでお互いに学び合うことも醍醐味の一つとなっています。



### 北陸3県からの参加状況

年度	研修国	参加者の校種
2013年度	エチオピア	小学校3名、高校4名、特別支援校1名
2014年度	サモア	小学校3名、中学校2名、高校2名
2015年度	サモア	小学校4名、中学校1名
2016年度	サモア	小学校3名、中学校1名、特別支援校1名

### ▶▶▶ JICA国際協力中学生・高校生エッセイコンテスト

毎年開発途上国や国際協力をテーマに中学生・高校生を対象にしたエッセイコンテストを開催しています。本コンテストの歴史は大変古く、これまで中学生の部は21回、高校生の部は55回を数えます。上位入賞者には、開発途上国でのJICA事業の現場視察などの研修に参加する機会が贈られます。コンテストの開催概要や募集作品テーマについては毎年6月頃にウエブサイトで発表されます。



### ▶▶▶ JICA施設訪問

課外活動、修学旅行などでJICAを訪問してみませんか? JICA北陸(金沢市)のほか、JICA地球ひろば(東京)、なご や地球ひろば(愛知)など、全国各地のJICAで施設訪問を受付 けています。JICAの実施する国際協力事業説明、青年海外協力 隊体験談など、希望する内容について事前にご相談ください。



### ▶ ▶ ▶ JICAホームページ

● JICAホームページ http://www.jica.go.jp/ ● キッズコーナー http://www.jica.go.jp/kids/index.html

TICA PERILAGE MAN MANUAL TOWN THE TOWN



### **▶▶▶** お問い合わせ先

### JICA北陸

〒920-0853石川県金沢市本町1-5-2リファーレ(オフィス棟)4F TEL: (076) 233-5931 FAX: (076) 233-5959

### JICAデスク

### 宮山県

(公財) とやま国際センター 富山市牛島新町5-5タワー111 4F TEL/FAX: 076-464-6491 (直通)

### 福井

(公財)福井県国際交流協会 福井市宝永3-1-1 福井県国際交流会館

TEL: (0776) 28-8800 FAX: (0776) 28-8818

# 2016年度教師海外研修報告書

発 行 2017年3月

発行者 独立行政法人国際協力機構北陸支部(JICA 北陸)

〒920-0853 石川県金沢市本町1-5-2 リファーレ (オフィス棟) 4F

TEL: (076) 233-5931 FAX: (076) 233-5959

E-mail: jicahric@jica.go.jp

URL: http://www.jica.go.jp/hokuriku/index.html